





# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	層名	心部	破砕区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	基盤岩コア観察カード 記号・説明・性状・基礎入替等
					破砕帯	破砕帯	破砕帯	破砕帯				
47.7	48.82										●48.88~48.92m:破砕帯(主せん断面48.88m) 48.88m:Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(カウジ)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。 48.88~48.92m:Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒、φ3~5m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下端部にマンガン鉱染伴う。 色調は灰黄褐(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1・下端部のみ)、厚さ20m/m 48.92~52.42m:CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	
48.5												
50												

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
●48.88~48.92m:破砕帯(主せん断面48.88m) 48.88m:Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(カウジ)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。
48.88~48.92m:Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒、φ3~5m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下端部にマンガン鉱染伴う。 色調は灰黄褐(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1・下端部のみ)、厚さ20m/m
48.92~52.42m:CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	最大コア長 (cm)	記事
47.7	48.82		崩壊帯	明褐色	CL	100	3	0	0	0	0	47.06~47.50m ・角礫状を呈する。 ●48.88~48.92m ・傾斜部である。カタクレーサイトからなる。
48.5			崩壊帯	明褐色	CL	100	3	0	0	0	0	・黒褐色の砂質シリカ土状~灰黄褐~黒褐色の礫質粘土状を呈する。 ・黒褐色の砂質シリカ土。累計厚1mm ・走向・傾斜は45° E70° Nである。 ・傾斜は55°である。 ・上盤境界の傾斜は56°、下盤境界の傾斜は53°である。 51.51~52.42m ・割れ目沿いに砂状化しており、一部砂礫状を呈する。
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	4	0	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	14	14	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	10	10	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	9	0	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	11	11	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	CL	100	4	0	0	0	0	
50			崩壊帯	明褐色	D	100	4	0	0	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>・粒度について、φ0.5~1mmの石英粒を20%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土と記載。</li> <li>・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・48.88~48.92mは、48.08~48.12mの誤り。※2</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 5D (m)	深度 (m)	採掘 位置	地層 名称	色 調	細区分				R D	最大 コア 長 (cm)	採掘 区分	採掘 区分	基盤岩コア観察カード	
					割れ目 状態	割れ目 形状	風化 状態	備考					記事・観察性状・詳細スケッチ等	採掘 区分
0.5													52	49.00~49.34m 割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。 50.44~50.67m 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。
5.1													53	51.15~50.50m 上下位よりも石英斑晶がφ5~15m/mと大型化する(上下位側はφ5m/m前後主体)。 51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10~30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。 52.18~52.22mは「細礫混じり粗粒砂」状呈する
0.5													54	52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3m/mで砂状化することが多い。

記事内容
49.00~49.34m 割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。 50.44~50.67m 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。
51.15~50.50m 上下位よりも石英斑晶がφ5~15m/mと大型化する(上下位側はφ5m/m前後主体)。
51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10~30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。
52.18~52.22mは「細礫混じり粗粒砂」状呈する
52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3m/mで砂状化することが多い。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	最大 コア 長 (cm)	採 取 率 (%)	記事
				CL			100	8	0				●48.88~48.92m ・掘削部である。カタクレサイトからなる ・掘削部である。
				CL			100	14	14				・黒褐色の砂混じり粘土状~灰黄緑~黒褐色の ・黒褐色の砂混じり粘土。厚さ約1mm ・走向・傾斜は40° E76° である。 ・傾斜は55° である。
				CL			100	10	10				・上層境界の傾斜は56°、下層境界の傾斜は 53° である。
				CM			100	11	11				●51.51~52.42m ・割れ目ぞいに砂状化しており、一部砂礫状 を呈する。
				D			100	4	0				●54.72~54.77m ・掘削部である。 ・歪みれつである。
				CL			100	3	0				・灰褐色の粘土状~明褐色の粗粒粘土状を 呈する。
				CL			100	2	0				・灰褐色粘土。厚さ約3mm ・走向・傾斜は40° E76° である。 ・傾斜は39° である。
				CL			100	3	0				・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は 39° である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
52	<ul style="list-style-type: none"> <li>49.00~49.34mの一部割れ目沿いで砂状化し、礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>50.44~50.67mの一部で砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>“岩級区分”欄に基づき、52.42mと記載。</li> <li>風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
54	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級とその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>コアの硬軟については、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いに砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しく、周囲に比べて著しく砂状化していないことから削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標高 (m)	深度 (m)	岩種	色	岩級区分	RQD		最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	備考
					R	Q			
54.77	54.77								
55.24	55.24								
55.24	57.70								
56.83	57.00								
57.00	57.45								
57.70	57.70								
57.70	57.99								
57.99	58.28								
58.28	58.28								

記事内容
<p>54.77～55.24m: D 全体に粘土化進む 55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む 55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24～57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。 56.83～57.00mでは割れ目ぞいの風化が進み砂状化、残留する硬さDのφ5～10m/m岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。 57.00～57.45mは密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細岩化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。 57.45～57.70m 割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。</p>
<p>57.70～57.99m: D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。</p>
<p>57.99～58.28m: CL 岩片は硬いが20～30° 割れ目が10～30m/m間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。</p>

標高 (m)	深度 (m)	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	備考

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>54.77～55.24mで粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>マンガン、割れ目沿いの変色、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>55.24～57.70mの一部割れ目沿いで締まった砂状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。</li> <li>56.83～57.00mで砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>57.00～57.45mで細片化しているが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
60	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目及び岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
61	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 φ0 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・群組スケッチ等
				割れ目状態	粘土の含有率	風化	崩壊			
	64.00								64	60.00~60.26m: CL 50~55° 割れ目が主体 割れ目ぞいにマンガン 鉱染を受ける。
	64.12								65	60.26~60.69m: 破砕帯 (主せん断面 60.58m) 60.26~60.58m: Hj 上端は28° で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18° で波打って連続。φ5~10m/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙(10YR 6/4)、厚さ320m/m(コア長)。
	64.26								66	60.58~60.59m: Hc-1 18° で上下端とも波打って連続。φ1m/m石英粒を約20%含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明褐灰(5YR 7/2)、厚さ10~12m/m
	64.39								67	60.59~60.69m: Hj 上端18° で、下端37° 割れ目でいずれも波打って連続。φ5~20m/m硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ100m/m(コア長)。
	64.69								68	60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化

記事内容	
64	60.00~60.26m: CL 50~55° 割れ目が主体 割れ目ぞいにマンガン 鉱染を受ける。
65	60.26~60.69m: 破砕帯 (主せん断面 60.58m) 60.26~60.58m: Hj 上端は28° で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18° で波打って連続。φ5~10m/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙(10YR 6/4)、厚さ320m/m(コア長)。
66	60.58~60.59m: Hc-1 18° で上下端とも波打って連続。φ1m/m石英粒を約20%含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明褐灰(5YR 7/2)、厚さ10~12m/m
67	60.59~60.69m: Hj 上端18° で、下端37° 割れ目でいずれも波打って連続。φ5~20m/m硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ100m/m(コア長)。
68	60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
65~67	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>表現の見直し(岩片と岩片間の粘土化→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>下盤境界の傾斜37° →27° ※1. ※4</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
68	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその深度区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>砂状化しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>



# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層位	層名	岩質		色調	粒度	形状	備考
				主成分	付随成分				
62	61.29								69
	61.41								70
	61.43								71
	61.69								72
	62.39								73

記事内容
69 ●61.29～61.69m:破砕帯(主せん断面61.41m)<D-I> 61.29～61.41m:Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目でφ5～10m/mに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1m/m以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100m/m
70 61.41～61.43m:Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5～15m/m
71 61.43～61.69m:Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5m/m岩片と、岩片間の斑点状～細脈状(幅1m/m)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)
72 61.69～62.39m:CL 45～60°とこれに斜～直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。
73 62.39～63.75m:D 局部的にφ5～20m/m硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。62.95m以深では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2m/m白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴ない薄く黒褐色化する



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
69～72	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粘土細脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
73	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の傾斜、マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>62.39～63.75mで砂状化し、一部で粘土を挟み込むが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

層位	深さ	層厚	層名	色	質	構造	観察項目		備考
							割れ目	層理	
49	63.75	0.10	63.75~63.80	7.5YR 7/3	粘土・砂混じり岩片	波打	○	○	74
50	63.80	0.05	63.80~63.85	7.5YR 5/2	粘土・砂混じり岩片	波打	○	○	75
51	64.49	0.17	64.49~65.18	7.5YR 5/2	粘土・砂混じり岩片	波打	○	○	76

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
74 ●63.75~63.85m: 破碎帯(主せん断面63.80m) 63.75~63.80m: Hj 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で直線的に連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土状~砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/3)、厚さ30~50m/m
75 63.80~63.85m: Hb 上端46°で直線的に、下端47°で波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ5~20m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は灰褐(7.5YR 5/2)、厚さ45~55m/m
76 63.85~64.49m: D φ10~20m/m硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体によく締った「砂礫状」を呈する。 粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度 64.49~65.18m: CH 堅硬・塊状

## 申請書用柱状図



記事	内容
	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
74, 75	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
76	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>岩片の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>63.85~64.49mで締まった砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>

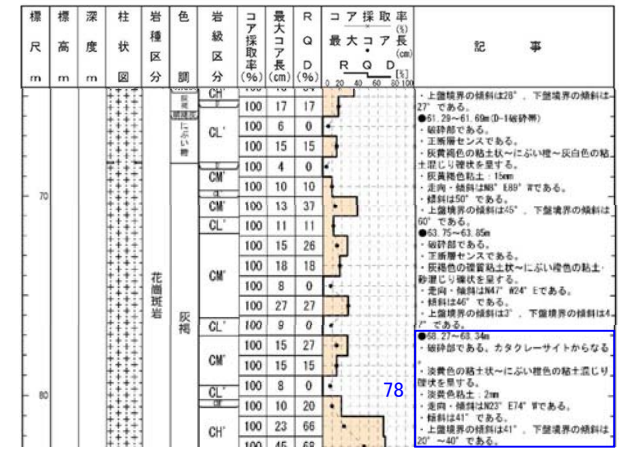
コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 6.6 (m)	深度 (m)	地質名	色	相区分				RQD	最大コア長	岩級区分	記事
				割れ目形状	土の性状	風化	崩壊				
66.63	64.63	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
66.18	65.36										
65.36	68.27										
65.00	66.01										
64.63	64.63										
64.18	64.18										
63.73	63.73										
63.28	63.28										
62.83	62.83										
62.38	62.38										
61.93	61.93	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
61.48	61.48										
61.03	61.03										
60.58	60.58										
60.13	60.13										
59.68	59.68										
59.23	59.23										
58.78	58.78										
58.33	58.33										
57.88	57.88										
57.43	57.43	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
56.98	56.98										
56.53	56.53										
56.08	56.08										
55.63	55.63										
55.18	55.18										
54.73	54.73										
54.28	54.28										
53.83	53.83										
53.38	53.38										
52.93	52.93	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
52.48	52.48										
52.03	52.03										
51.58	51.58										
51.13	51.13										
50.68	50.68										
50.23	50.23										
49.78	49.78										
49.33	49.33										
48.88	48.88										
48.43	48.43	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
47.98	47.98										
47.53	47.53										
47.08	47.08										
46.63	46.63										
46.18	46.18										
45.73	45.73										
45.28	45.28										
44.83	44.83										
44.38	44.38										
43.93	43.93	Gp	灰黄色	片状	C	V	2	17	CL	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
43.48	43.48										
43.03	43.03										
42.58	42.58										
42.13	42.13										
41.68	41.68										
41.23	41.23										
40.78	40.78										
40.33	40.33										
39.88	39.88										

記事内容
64.63～63.73m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状～角礫化する。 粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。
65.18～65.36m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する
65.36～68.27m: CL 岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。
65.96～66.01mは砂状化が進んでいる
65.00～65.17m 長柱状コア(コア長17m)
66.20～68.01m 上下位に比べ風化がやや進む。
66.39～66.65m 割れ目ぞいに砂状化進む
66.39～66.44m コアチューブ引上げ時に乱されφ10%前後の岩片状コアを呈する。
66.65～67.00m 硬さ「B」と堅硬な岩片も多く含む
67.00～67.46m 落下コア回収のため2度掘りしている。
67.48～67.63m 長柱状コア(コア長15cm)
67.65～68.01m 硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。
68.01m以深は割れ目挟在物は殆んど分布しない。
●68.27～68.34m: 破砕帯(主せん断面68.27m)
68.27m: Hc-1 41°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ1～2m/m
68.27～68.34m: Hj 上端41°で直線的に、下端20～40°で湾曲し、一部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1～5m/m軟弱粘土脈として連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目でφ5～10m/mlに細片化した岩片と岩片間の一部が幅1mm/m白～淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ65m/m



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・64.63～64.73mで片状～角礫状、65.36～68.27mの割れ目沿いで砂状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・65.18～65.36mで締まった砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
78	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端面及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・68.27～68.34mは、68.02～68.06mの誤り。※2</li> </ul>

# H27-B-2

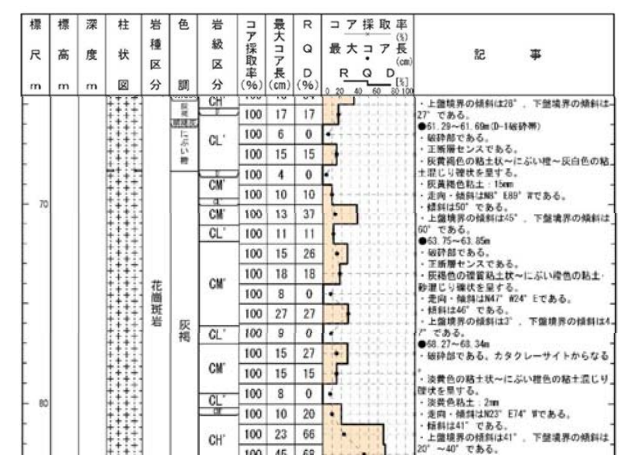
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード															
70層	69層	68層	67層	66層	70層				69層						
					層厚	層位	層名	層色	層厚	層位	層名	層色			
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5

記事内容
68.34～69.69m: CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟雑物は少ないが、69.30～69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部を含まむ 68.34～68.38mは軟化著しい
69.69～69.95m: CL 69.81～69.95mは割れ目ぞいに砂状化進み φ10～20m/m岩片を含む「砂礫状」呈する 69.95～71.06m: CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°割れ目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面ぞいに幅1～2m/m砂状化。φ0.5～1m/mの雲母(セリサイト)が晶出している。

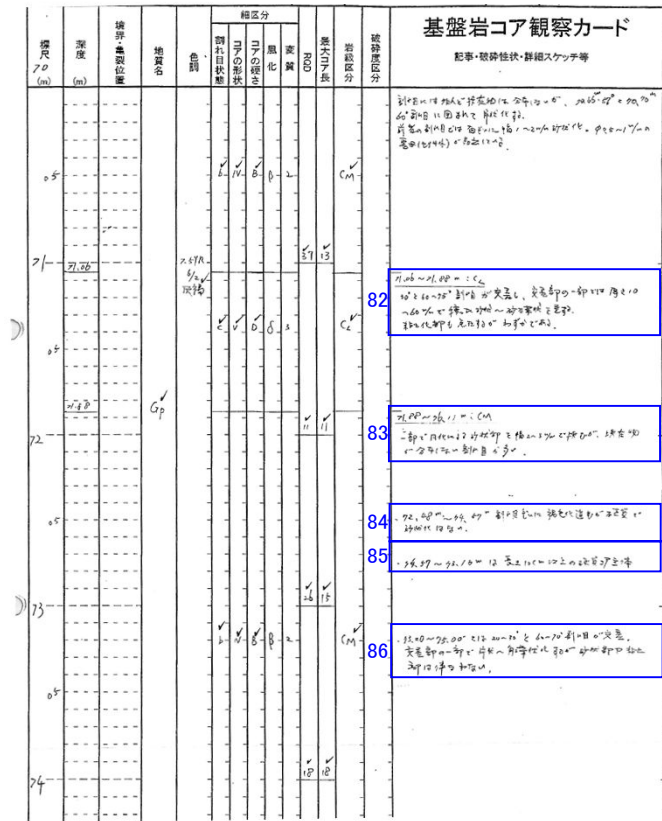


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
79	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・区間上端が軟質化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
80, 81	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・一部で砂礫状・片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
82	71.06~71.88m: CL 30°と60~75°割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60m/mで締った砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。
83	71.88~76.11m: CM 一部で風化による砂状部を幅2~3m/mで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。
84	72.48m~74.57m 割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。
85	74.57~73.16mは長さ10cm以上の硬質コア主体
86	73.20~75.00mでは20~30°と60~70°割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
82	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・粘土化部については、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
83	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> </ul>
84	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
85	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
86	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の傾斜、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

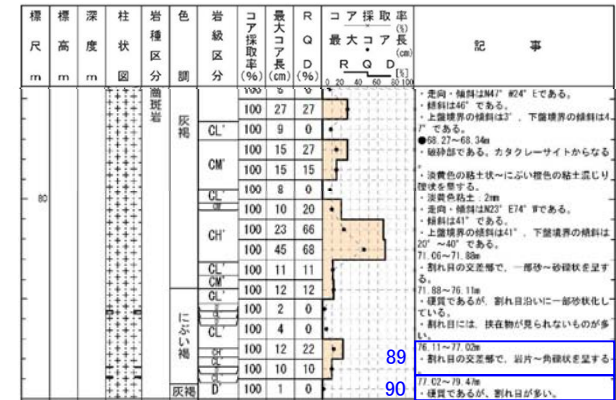
## コア観察カード (H27年8月)

凡例 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	観察区分		観察区分		観察区分		観察区分		観察区分		観察区分		記事
										観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	観察区分	
74																						
75																						87
76																						88
77																						89
78																						90

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
87	74.85～75.00m 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。
88	75.65～75.92mは内部にゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア
89	76.11～77.02m: CL 割れ目が交差しφ10～30m/mの片状～角礫状化する。 岩片自身は硬質で劣化はない 一部の割れ目ではφ2～5m/mの細礫状に幅10m/m以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。 全体に長石の白濁化が目立つ。
90	77.02～79.47m: CM 全区間硬質であるが、77.43m～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30m/m前後に分離・細片化し易い。 また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
87, 88	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
89	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>一部割れ目沿いで細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
90	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、割れ目が多いと記載。</li> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>割れ目の密着状態、マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

基盤岩コア観察カード										
観察・記録係・記録スケッチ等										
79.00	78.00	77.00	76.00	75.00	74.00	73.00	72.00	71.00	70.00	69.00
78.00	77.21	77.00	76.80	76.60	76.40	76.20	76.00	75.80	75.60	75.40
79.00	78.40	78.20	78.00	77.80	77.60	77.40	77.20	77.00	76.80	76.60
79.00	79.00	78.80	78.60	78.40	78.20	78.00	77.80	77.60	77.40	77.20
79.00	79.00	78.80	78.60	78.40	78.20	78.00	77.80	77.60	77.40	77.20
79.00	79.00	78.80	78.60	78.40	78.20	78.00	77.80	77.60	77.40	77.20

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>77.21m 交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3m/m砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。 78m以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。 78.40m 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。</p>
<p>79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。 79.10m 40° 割れ目ぞい幅10~15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5m/m以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。</p>
<p>79.47~80.19m: CL 30°~50° と70° 割れ目が交差、交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。 70° 割れ目の一部に幅2~3m/mの淡黄~褐色粘土脈はさむ。</p>
<p>79.83~79.90m 割れ目ぞいに砂状~φ2~5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。</p>

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
91	<ul style="list-style-type: none"> <li>77.21mで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>割れ目の密着状態、マンガン、割れ目の変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
92	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示していることから削除。</li> <li>一部割れ目沿いで細片状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>一部に粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
93	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部割れ目沿いで砂状化し、粘土を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

採尺 分D (m)	深度 (m)	標高 位置	地質 記号	相区分										硬質 記号	岩級区分	硬質 記号	基盤岩コア観察カード 記事・硬質記号・詳細スケッチ等
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
80.19	80.19															94	80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
80.48	80.48															95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
81.10	81.10															96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
82.10	82.10															96	82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。
82.72	82.72															96	82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。
82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
95	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
96	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>



# H27-B-2

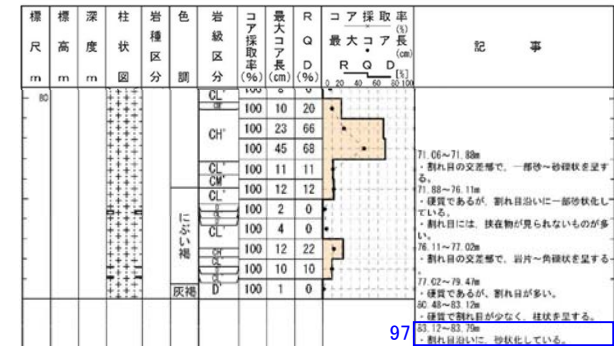
## コア観察カード (H27年8月)

基盤岩コア観察カード									
観察・記録係・記録スケッチ等									
凡例	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	観察区分			
						硬軟	割れ目	マンガン	その他
0.0	0.0								
0.5	0.5								
1.0	1.0								
1.5	1.5								
2.0	2.0								
2.5	2.5								
3.0	3.0								
3.5	3.5								

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
97 83.12～83.79m: CL 83.46m以浅は20～50° 割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン 鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟化する
98 83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。
99 83.79～84.43m: CM 堅硬。 84.35～84.38mで10～15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化、砂状化する以外は割れ 目挟在物は分布しない。 一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。
100 84.43～84.61m: CL 硬さ「C」岩片主体、多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし
101 84.61～85.50m: CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
97	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
98	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・84.35～84.38mで割れ目ぞいに砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
101	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・一部割れ目ぞいに砂状化するが、周囲の岩盤に劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	地層	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	岩質		色調		備考
										硬さ	軟さ	色調	色調	
85.15														
85.24														
85.50														
85.58														
85.63														
85.64														
85.76														
86.52														
86.56														
87.47														
87.90														

記事内容
85.15m 50° 幅5m/軟質な灰白色粘土脈はさむ。 85.24~85.35m 砂状化が進んでいる。40° 前後の割れ目が残留 85.50~85.58m: D 粘土化が進む。
●85.58~85.76m: 破砕帯(主せん断面85.63m)
85.58~85.63m: Hj 上端40° で直線的に、下端48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ5~10m/、硬さ「D」岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5m/m石英脈が主せん断面とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。 色調は灰黄(2.5Y 7/2)、厚さ35m/m
85.63~85.64m: Hc-2 48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5m/m、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ5m/m
85.64~85.76m: Hj 上端48° で波打って、下端32° で幅1~2m/mの軟弱な灰白(2.5Y 8/2)粘土脈として直線的に連続。主せん断面と同方向へ斜交する割れ目でφ5~10m/mに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1m/m灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈が分布。85.68m・53° のシャープなsjが分布し、これに深は一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。 全体には「粘土・砂混じり岩片状」呈する。 色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐(7.5YR 6/3)、厚さ100~120m/m
85.76~87.47m: CL 86.52m以浅は硬さ「D」86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアを含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。 85.76~86.00mは石英をφ10 m/m斑点状~幅2m/m、20° 脈状に含む。 87.47~84.90m: CH 硬硬、長石の一部は白濁化する。 一部でゆる割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 87.90~88.38m: CL 割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。 密着度の低いゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃でゆる割れ目ぞいに分離・細片化し易い。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					CL	100	12	12				
					CL	100	2	0				
					CL	100	4	0				
					CL	100	12	22				
					CL	100	10	10				
					灰緑	100	1	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
102	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部で粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>一部で砂状化しているが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>85.50~85.58mで粘土化が進行しているが、原岩組織が比較的残留しており、劣化の系統性も不明瞭であることから削除。</li> </ul>
103~106	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状)</li> <li>φ2~3mmの石英粒、φ5mm硬さD岩片を10%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率、鉱物脈、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
107	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>一部割れ目沿いで砂状化するが、いずれも周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

表盤岩コア観察カード  
観察・記録者氏名: 藤田スズケツ等

108  
109  
110  
111  
112  
113  
114

記事内容	
108	●88.38~88.43m: 破砕帯(主せん断面88.43m) 88.38~88.42m: Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目によりφ5~10 m/mに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35 m/m
109	88.42~88.43m: Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調は明黄褐(10 YR6/6)、厚さ5 m/m
110	88.43~88.88m: CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂をはさむ。
111	●88.88~88.94m: 破砕帯(主せん断面88.92m) 88.88~88.92m: Hj 30°で、上端は幅0.5m/mの軟弱な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達しφ5m/mの岩片に細片化している。岩片間は幅1m/m以下とごく薄く粘土~砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR7/2)、厚さ15~20m/m
112	88.92~88.94m: Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続、φ1~3 m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片計15%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15~20 m/m
113	
114	

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	R	Q	最大コア長D(%)	記事
						CL	100	12	12			108~110
						CL	100	2	0			
						CL	100	4	0			
						CL	100	12	22			
						CL	100	10	10			112~114
						D	100	1	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
108~110	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
111	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
112~114	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状)</li> <li>φ1~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片計15%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 Y(m)	深度 X(m)	地層 位置	地層 区分	色調	割れ目 の長さ	割れ目 の傾斜	割れ目 の幅	割れ目 の深さ	割れ目 の形状	割れ目 の方向	割れ目 の密度	割れ目 の性状	基盤岩コア観察カード	
													記事	備考
88.94													記事内容	
90.81														
91.69														
91.70														
91.72														
91.76														
94.80														

記事内容
88.94~91.69m: D 割れ目ぞいに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5~20m/mの硬さ「C」「D」岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40~60°が主体。 90.50m 60°、厚2~3m/mの石英脈が分布 90.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。 91.04mと91.20m 割れ目に厚さ1m/mの軟質な灰白色粘土が脈状に分布、前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。 91.60m以深ではφ3m/m長石斑品が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。
●91.69~91.76m: 破砕帯(主せん断面91.70m)
91.69~91.70m: Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5m/mと微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土(ガウジ)、色調は明褐灰(7.5YR7/2)~灰褐(7.5YR5/2)で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。 厚さ3~8m/m
91.70~91.72m: Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続、φ1~3m/m石英粒、φ5m/m前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質「礫質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)、厚さ7~12m/m
91.72~91.76m: Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主せん断面と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5~10m/mに岩片化している。岩片間にも主せん断面と同方向の幅0.5~1m/m軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐(7.5YR 5/3)、厚さ30~40m/m
91.76~94.80m: CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10~30m/mの小岩片に分離・細片化する。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	最大コア長(%)	記事
						D'	100	2	0			●91.69~91.76m ・破砕帯である。 ・おずれセメントである。 ・帯状に黒褐色の粘土質~灰白色の硬質粘土状ににぶい褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・帯状に黒褐色粘土、厚さ約10mm ・走向・傾斜不明。軟弱である。 ・傾斜は51°である。 ・上層境界の傾斜は51°、下層境界の傾斜は60°である。 ●91.70~91.76m ・硬質で割れ目が少なく、縞状を呈する。
						D'	100	3	0			
						CL	100	5	0			
						CL	100	9	0			
						CH	100	12	12			
						CH	100	25	27			
						CH	100	15	27			
						CH	100	7	0			
						CH	100	9	0			
						CH	100	9	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
115	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・88.94~90.81mでは砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、鉱物脈、マンガン、割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・90.81~91.69mの一部割れ目に砂や粘土を挟むが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
116~118	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>・縞状模様については、色調で示していることから削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
119	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深度 (m)	層名	層番号	地質記号	地質区分				備考	観察内容
				色調	岩質	構造	その他		
91.76								91.76～93.00m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。 92.09mのφ10m/m緑泥石が30°割れ目で切断されるが変位はない。 92.18m・70°～92.24m・44°間はφ5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。 92.65m 55°割れ目に幅2m/mマンガンを脈状にはさむ。 93.81～94.13m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。 94.26～94.38m φ5～10m/mの大型石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。	
92.18								92.18～92.24mで岩片状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	
94.26								94.26～94.38m φ5～10m/mの大型石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。	
94.80								94.80～97.96m: CH 全体が緑灰色化する。	
97.96								概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある挟在物をささない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。	

記事内容
93.00m以浅はコア長3～5cm主体の短柱コア、93.00m以深はゆ着割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目ぞいに砂状化することがある。マンガンをはさむが、粘土脈は殆んど分布しない。 92.09mのφ10m/m緑泥石が30°割れ目で切断されるが変位はない。 92.18m・70°～92.24m・44°間はφ5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。 92.65m 55°割れ目に幅2m/mマンガンを脈状にはさむ。 93.81～94.13m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。 94.26～94.38m φ5～10m/mの大型石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。 94.80～97.96m: CH 全体が緑灰色化する。
概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある挟在物をささない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
120	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、マンガン、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・91.76～93.00mの一部割れ目沿いで砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・緑泥石が切断される、石英斑晶が切断されるとの記載については、変位が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・92.18～92.24mで岩片状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
121, 122	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・色調、割れ目沿いの変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

基礎情報		コア情報		観察情報		判定情報		備考	
尺	深	柱状	色	岩	採	最大	R	最大	採
m	m	m	区	級	取	コア	Q	コア	取
			分	分	率	長	(%)	長	率
					(%)	(cm)		(cm)	(%)
05									
76									
05									
97									
05									
98									
05									
99									
05									
100									

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、動脈は途中で尖滅している。 95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ
97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルトから細砂脈をはさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。
97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44mは浅は岩片は硬質、以深は風化で軟化している
99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

## 申請書用柱状図

標尺	標高	深	柱状	岩	色	岩	採	最大	R	最大	採	記事
m	m	m	図	種	調	級	取	コア	Q	コア	取	
				区	分	分	率	長	(%)	長	率	
							(%)	(cm)		(cm)	(%)	
		100				CH	25	27				・明褐色~灰褐色粘土、厚計厚5mm ・炭角・細粒は明、高7mmである。 ・傾斜は51°である。 ・上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・96.60~97.36m ・硬質で割れ目ぞいなく、粒状を呈する。 ・98.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
		100				CH	15	27				
		100				CH	7	0				
		100				CH	9	0				
		100				CL	11	11				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
123	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜・変色、鉱物脈、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>一部割れ目沿いに砂状化、シルトや砂の挟在がみられるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
124	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
125	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (0.0 m)	深度 (m)	境界 番号 位置	地質名	色	細区分				割れ目 形状	割れ目 長さ	風化 変質	RQD	最大コア 長さ	岩級区分	硬さ区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目 形状	割れ目 長さ	風化 変質	RQD								
0.0	100.00															
0.5	100.52															126
1.0	101.32															127
1.5	102.05															128
2.0	102.94															
2.5	103.70															
3.0	104.65															
3.5	105.00															

記事内容
100.52~101.32m 割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84~100.89m、101.23~101.32m間は割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10m/m岩片と共に「砂礫状」呈する。
101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。
102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布、103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。 102.05~102.41m 約10m/m間隔で細かく密着度の低いゆ着割れ目が多い。 102.41~102.94m 硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3m/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。

標尺 m	高度 m	柱状 図	岩種 区分	色	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記事
									R	Q	D	
100					CL'	100	11	11				100.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
					CM	100	4	0				
					CL'	100	6	0				102.94~103.17m ・割れ目ぞいに、砂状化している。
					CL'	100	4	0				
					CL'	100	6	0				
					CM	100	5	0				104.65~115.99m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
					CM	100	14	24				
						100	17	17				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
126	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>100.84~100.89m、101.23~101.32mで砂礫状を呈するが、いずれも連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
127	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
128	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目沿いに砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	割れ目状況				備考
				割れ目の形状	割れ目の長さ	割れ目の密度	割れ目の方向	
103	102.94							129
	103.17							130
	103.70							131
	104.65							132

記事内容
129 102.94~103.17m 20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。
130 103.17~103.70m 割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「ゆる割れ目」が多い。
131 103.70~104.65m 風化が進み岩片も含め全体が軟化している。処々に幅1~2m/m軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。
132 104.65~107.15m:CM 104.14~104.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図		区分	(%)	(cm)	D	D	(%)	(cm)	
100					CL	100	11	11				129
					CM	100	4	0				
					CL	100	4	0				
					CM	100	5	0				
					CL	100	14	24				C
					CM	100	17	17				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
130	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
131	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片～短柱状と記載。</li> </ul>
132	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (1.5分)	深度 (m)	境界番号 (位置)	地質 (位置)	色 (位置)	細区分				最大コア長 (cm)	岩級区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目 (位置)	細片 (位置)	実質 (位置)	実質 (位置)			
02											104.14~104.19m 上下端とも40°割れ目に囲まれて締った砂状~φ2~3m/m細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m/m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。
06											105.70~105.83m 割れ目が交差し、φ20~30m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
06											106.21~106.81m 仰着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。
07											107.68~107.73m 割れ目が交差し、φ10~20m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
07											107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいにφ3~5m/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず、ほど未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。
07											107.60~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。
08											110.10m~114.06m間は幅10~30m/m間隔程度の密着度の低い「仰着割れ目」も含んでいる。ほど未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。
08											108.57~108.60m 40°割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。

記事内容
104.14~104.19m 上下端とも40°割れ目に囲まれて締った砂状~φ2~3m/m細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m/m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。
105.70~105.83m 割れ目が交差し、φ20~30m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
106.21~106.81m 仰着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。
107.68~107.73m 割れ目が交差し、φ10~20m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいにφ3~5m/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず、ほど未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。
107.60~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。
110.10m~114.06m間は幅10~30m/m間隔程度の密着度の低い「仰着割れ目」も含んでいる。ほど未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。
108.57~108.60m 40°割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。

標尺	高度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	記事
			崩壊岩			100	14	24			104.65~115.99m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~粒状状を呈する。
						100	14	17			107.15~107.62m ・割れ目ぞいに一部細片化している。
						100	6	0			108.57~108.60m ・割れ目ぞいに一部粒状化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
133	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> <li>104.14~104.19mで締まった砂状を呈し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>105.70~105.83m, 107.68~107.73mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
134	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>割れ目の挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
135	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
136	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 10 (m)	深度 (m)	境界 番号 位置	地質 名	色調	細区分				最大径 (mm)	硬軟 区分	破砕 区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目 性状	子の 性状	風化	実質				
0.5	110.40										137	110.40~110.51m 白色化した「ゆ着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。
0.5	111.37										138	111.37m 75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2m/m砂状化 これに交差する30° 割れ目は切られている。
0.5	112.41										139	112.41~112.44m 5° 前後の割れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない
0.5	113.63										140	113.63~113.81m 白色の「ゆ着割れ目」が5~10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。
0.5	114.37										141	114.37~115.70m 緑色系色調に変化する。 114.65m 80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5m/m以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着

記事内容
137 110.40~110.51m 白色化した「ゆ着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。
138 111.37m 75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2m/m砂状化 これに交差する30° 割れ目は切られている。
139 112.41~112.44m 5° 前後の割れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない
140 113.63~113.81m 白色の「ゆ着割れ目」が5~10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。
141 114.37~115.70m 緑色系色調に変化する。 114.65m 80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5m/m以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着



113.63~113.81m  
: 密着した割れ目が、間隔5~10mで分布する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
137	・割れ目沿いに開口しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
138	・割れ目沿いに砂状化し、割れ目は切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
139	・割れ目沿いに細片化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
140	・変更なし
141	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・114.65mで鏡肌を伴い、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号	地質 名	色調	割れ目状態			RQD	最大 コア長 (cm)	岩級区分	変質	風化	軸区分		破砕区分	基盤岩コア観察カード 記事・磁気性・詳細スケッチ等
					割れ目の 形状	割れ目の 長さ	割れ目の 密度						軸区分	軸区分		
115.33	115.70															115.33~115.70m 暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2m/m斑点状~幅1m/m脈状で分布する。特に前者で分布が多い。
115.70	116.00															115.70m以下で暗色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。
115.99	116.49															115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30m/m主体に岩片化している。
116.49	116.80															割れ目ぞいの多くは幅1~3m/mで砂状~細密片状化する。
116.80	116.37															116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。
116.49	119.47															116.49~119.47: CM 挟雑物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。 また、割れ目交差部の一部ではφ5~10m/m程度に細片状化する部分もある。
117.21	117.70															117.21m 70° 割れ目に幅2m/mで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。
118.12	119.10															118.12~119.10m 30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。
118.23	118.53															118.23~118.53m 20~30° の「ゆ着割れ目」が10~20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口割れ目化している。

記事内容
115.33~115.70m 暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2m/m斑点状~幅1m/m脈状で分布する。特に前者で分布が多い。
115.70m以下で暗色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。
115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30m/m主体に岩片化している。
割れ目ぞいの多くは幅1~3m/mで砂状~細密片状化する。
116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。
116.49~119.47: CM 挟雑物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。 また、割れ目交差部の一部ではφ5~10m/m程度に細片状化する部分もある。
117.21m 70° 割れ目に幅2m/mで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。
118.12~119.10m 30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。
118.23~118.53m 20~30° の「ゆ着割れ目」が10~20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口割れ目化している。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 番号	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	最大 コア長 (cm)	最大 コア長 (cm)	記事
110						100	9	0			
						100	9	0			
						100	11	11			
						100	4	0			
						100	9	0			
						100	9	0			
						100	8	0			
						100	9	0			
						100	8	0			
						100	6	0			
						100	5	0			

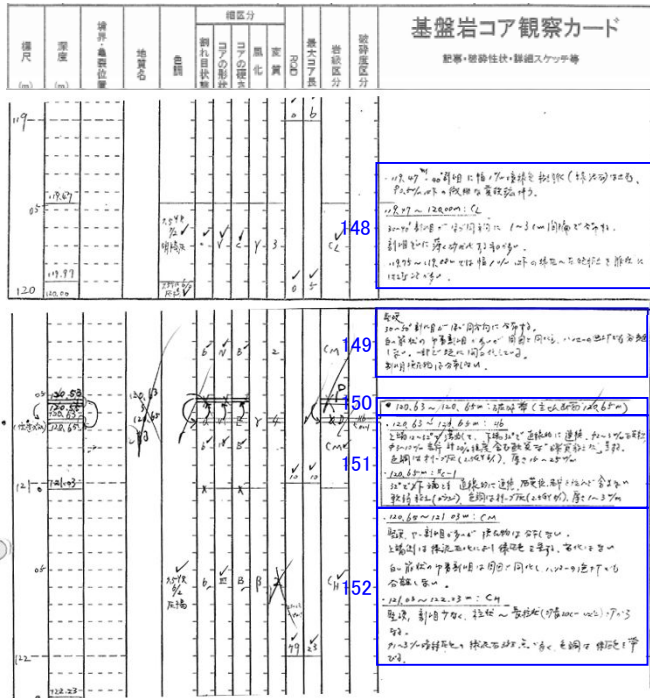
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
142	・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
143	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、“コアの形状”欄に基づき、岩片状と記載。 ・割れ目扱いで砂状から細片状を呈するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
144	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
145	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片~短柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂状化の幅については、ばらつきがあるため削除。
146	・鉱物脈、変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目扱いで片状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。
147	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-2

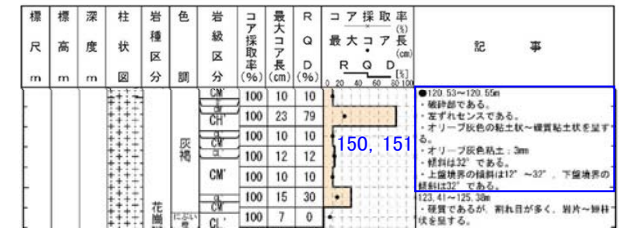
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
119.47m	40° 割れ目に幅1m/m暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱付着。 119.47~120.00m: CL
30~40°	割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。 119.75~119.88mでは幅1m/m以下の緑灰~灰白色粘土を脈状にはさむことが多い。
120.63~120.65m	●120.63~120.65m: 破碎帯(主せん断面120.65m)
120.63~120.65m	Hb 上端は12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ3~10m/m岩片計20%程度含む軟質な「礫質粘土状」呈する。 色調はオリブ灰(2.5GY 6/1)、厚さ15~25m/m
120.65m	HC-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調はオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ1~3m/m
120.65~121.03m	CM 堅硬。やゝ割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない
121.03~122.23m	CH 堅硬、割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。φ1~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
148, 149	<ul style="list-style-type: none"> <li>119.47mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>鉱物の晶出、割れ目の傾斜・密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>119.75~119.88mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。</li> </ul>
150, 151	<ul style="list-style-type: none"> <li>深度120.63~120.65m→120.53~120.55m※2</li> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
152	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級およびその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>挟在物の有無、色調、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

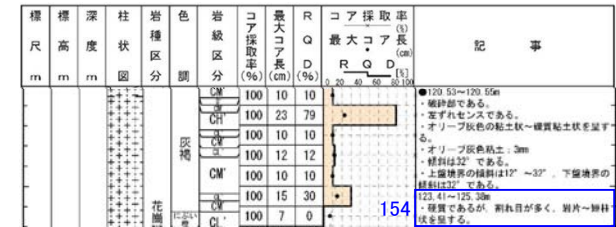
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	層区分			備考
					岩種区分	色	柱状	
0	122.03							
	122.92							
	123.77							
	124.41							
123								
124								
125								

記事内容
<p>122.23~122.42m: CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する 白い筋状のゆ着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いものが多い。</p> <p>122.42~122.97m: CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む 割れ目は薄褐色化するが挟在物は分布しない。 φ5~10m/m橙色のかり長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。</p> <p>122.97~133.41m: CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。</p> <p>133.41~125.38m: CM 一部で密着度の低い割れ目や「ゆ着割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある) ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2m/m暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる</p> <p>124.30m付近でコアが片状化しているが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した乱れである。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
153	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・変色、割れ目の密着状態、挟在物の有無、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
154	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上端深度133.41m→123.41m※3</li> <li>・“コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片〜短柱状と記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質による補足的なものであるため削除。</li> </ul>
155	<ul style="list-style-type: none"> <li>・124.30m付近で片状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (2.5 m)	深度 (m)	地層 番号	地層 名	割れ目 性状	細区分				岩 質	割れ目 長さ (cm)	硬 度 分	記事・観察性状・詳細スケッチ等
					割れ目 の 形状	割れ目 の 長さ	割れ目 の 傾斜	割れ目 の 開き				
	125.00										156	125.00~125.38m: 50°割れ目の傾斜は概ね50°、開き約10mm。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。
	125.38										157	125.38~126.25m: 50°割れ目性状を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。
	126.25										158	126.25~127.41m: 50°割れ目性状を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。
	127.41											127.41~128.00m: 50°割れ目性状を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。割れ目性状は細片化・砂状化を示す。

記事内容
125.00~125.38m 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 125.38~125.70m: CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10m/m程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。
125.38m 50° 割れ目ぞい幅10m/mはφ3~5m/mの硬質細片状化部、粘土、砂は伴わない。
125.70~126.25: CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆ着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない
126.25~127.41m: CL 一部で50~60° 割れ目ぞいにφ5m/m前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2m/mの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ「C」岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はにぶい橙(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩 級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事	
			花崗斑岩		CL	100	15	30			157	123.41~125.38m ・硬質であるが、割れ目が多く、割れ目性状を呈する。 125.38m ・割れ目沿いに細片化している。 127.41~127.41m ・凝結部である。スタクレーサイトからなる。灰白色の粘土状~にぶい黄褐色の粘土凝じり性状を呈する。 ・灰白色粘土・累計厚1mm ・走向・傾斜はN45° E32°である。 ・傾斜は50°である。 ・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は50~66°である。 ・128.82~129.97m ・凝結部である。スタクレーサイトからなる。 ・凝結部の砂凝じり粘土状~灰白色の粘土・砂凝じり性状を呈する。 ・凝結灰色砂凝じり粘土・累計厚5mm ・走向・傾斜はN45° E32°である。 ・傾斜は50°である。 ・上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は62°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
157	・割れ目の傾斜、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・細片化の幅については、一部で不連続で、ばらつきがあるため削除。
158	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・挟在物の有無、色調については、補足的なものであるため削除。 ・126.25~127.41mの一部割れ目沿いで細片~砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
観察・観察状況・経過スケッチ等									
層位	層名	層厚	色	構造	割れ目	付随物	備考	採取	その他
130	130.75								
135	135.75								
140	140.75								
145	145.75								
150	150.75								
155	155.75								
160	160.75								
165	165.75								
170	170.75								
175	175.75								
180	180.75								
185	185.75								
190	190.75								
195	195.75								

記事内容
128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。 129.95~130.79m: CM
166 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3m/m砂をはさむが、これ以外では挟在物は分布しない。
167 130.58m 80°とこれと交差する40~50°割れ目ぞいで幅1~3m/m風化砂はさむ。粘土は伴わない。また80°割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。
168 130.79~131.95m: CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。 また部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1m/m以下)を伴う。
169 131.79m 55°割れ目上盤側は厚10~15m/m砂状化、灰白色粘土細脈も伴う
131.95~132.89m: D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20m/岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~2m/mの細脈として分布
132.41~132.60mは硬さ「C」の岩片状コア。 131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。
132.89~133.24m: CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1~2m/m程度に砂状化した砂をはさむ。
133.15~133.24mの一部で砂状化が拡大している。
133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。
133.49~133.76m: CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
130				明緑灰		CL	100	5	0				・灰白色の粘土状~細かい黄褐色の粘土混じり塊状を呈する。 ・灰白色粘土・黒針厚1mm ・走向・傾斜は不明 ・傾斜は50°である。 ・上盤境界の傾斜は50°、下盤境界の傾斜は50°~60°である。 ・傾斜は不明である。スケラサイトからなる。
				明緑灰		D	100	3	0				・凝結灰色の砂状~灰白色の粘土・砂状部を呈する。 ・黒針厚5mm ・走向・傾斜は不明 ・傾斜は50°である。 ・上盤境界の傾斜は50°、下盤境界の傾斜は50°である。
				明緑灰		CL	100	5	0				130.79~131.79m ・割れ目ぞいに砂状化している。
				明緑灰		CL	100	5	0				133.25~134.23m ・アプライトである。
				明緑灰		CL	100	4	0				・凝結部である。スケラサイトからなる。
				明緑灰		CL	100	7	0				・凝結部である。スケラサイトからなる。
				明緑灰		CL	100	6	0				・明緑灰色の粘土状~凝結灰色の凝結粘土~凝結部を呈する。 ・黒針厚1mm ・走向・傾斜は不明 ・傾斜は40°である。 ・上盤境界の傾斜は40°、下盤境界の傾斜は50°である。
				明緑灰		D	100	2	0				・134.15~134.23m ・凝結部である。 ・上盤境界の傾斜は不明である。
				明緑灰		CL	100	6	0				・オリブ~黒針厚1mmの粘土状~オリブ灰色の粘土混じり塊状を呈する。 ・黒針厚1mm ・走向・傾斜は不明 ・傾斜は70°である。 ・上盤境界の傾斜は70°である。
				明緑灰		CL	100	5	0				・134.23~136.54m ・花崗閃緑岩である。

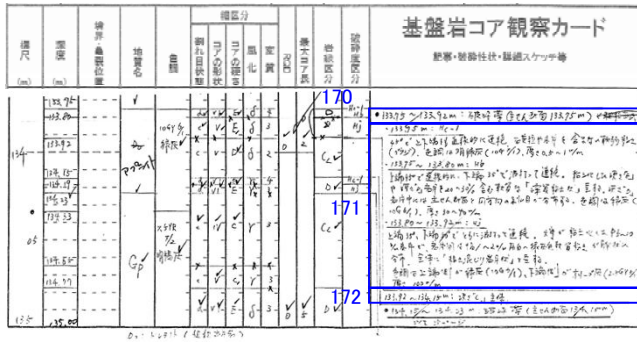
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
165, 166	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・一部割れ目ぞいで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・130.58mで割れ目を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
167, 168	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂状化が特に目立つ区間として、130.79~131.79mと記載。</li> <li>・一部割れ目ぞいに粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
169	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・131.95~132.89m、133.24~133.49mで砂礫状を呈し、一部で粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・132.89~133.24mの一部割れ目ぞいで砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“地質名”欄に基づき、アプライトとその深度区間を記載。</li> </ul>



## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
170	●133.75~133.92m: 破碎帯(主せん断面133.75m) 133.75m:Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明緑灰(10G 7/1)、厚さ0.5~1m/m 133.75~133.80m:Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「糜質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰(10G 6/1)、厚さ30~40m/m
171	133.80~133.92m:Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10m/m岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は上端側が緑灰(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m
172	133.92~134.15m 硬さ「C」主体



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
170, 171	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粘土脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。</li> </ul>
172	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
観測・検出特性・基礎スケッチ等									
層別	深度	岩種	色調	岩級区分	岩種区分	R	Q	D	備考
173	134.15								
174	134.15~134.19								
175	134.19~134.23								
176	134.23~134.33								
177	134.33~135.34								
178	136.40~137.60								

記事内容	
173	●134.15~134.23m: 破砕帯(主せん断面134.15m)
174	134.15~134.19m: Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。下端側にφ0.5m/m以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリブ灰(2.5GY 5/1)、中央・明オリブ灰(2.5GY 7/1)、 下端・暗オリブ灰(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する 厚さ20m/m
175	134.19~134.23: Hj 上端75°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5~20m/m岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ30m/m以上。
176	134.23~134.77m: CL 細粒玄武岩(ドレイト)下盤側貫入境界直下部である。 割れ目はやまが多いが劣化は伴わない。 134.23~134.33m DoとGpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。 134.77~135.34m: D 土砂状~φ10m/m細岩片状部が主体
177	135.34~145.65m: CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布 一部で密着度の低いゆ着割れ目を含んでいる 硬さ「B」は割れ目ぞいに風化が広がりφ5~10m/mの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。 136.40m以深でφ2~3m/mの暗緑灰色、緑泥白斑点が点在する。
178	136.54m 35°幅10~15mでアブライトがφ5m/m前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。

層別	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	岩種区分	R	Q	D	最大コア長	最大コア径	備考
	134.15		灰									
	134.15~134.19		灰									破砕部である。カタクレサイトからなる。
	134.19~134.23		灰									・ 緑灰色の粘土混じり粘土状~灰赤色の粘土 ・ 砂混じり礫状を呈する。 ・ 緑灰色砂混じり粘土。累計厚5mm ・ 走向・傾斜はN0° E0° Eである。 ・ 傾斜は75°である。 ・ 上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は42°である。 ・ 130.78~131.79m ・ 割れ目が多い。砂状化している。 ・ 133.75~134.22m ・ アブライトである。 ・ 133.75~133.92m ・ 破砕部である。カタクレサイトからなる。
	134.23~134.77		花崗岩									・ 緑灰色の粘土状~緑灰色の硬質粘土~緑 ・ 灰~オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・ 緑灰色粘土。累計厚1mm ・ 走向・傾斜はN0° E0° Eである。 ・ 傾斜は45°である。 ・ 上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は50°である。
	134.77~135.34		土砂									●134.15~134.23m ・ 破砕部である。 ・ 土層構造を呈している。 ・ オリブ灰~暗オリブ灰の粘土状~オリ ・ 灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・ オリブ灰~暗オリブ灰色粘土。累計厚 30m ・ 走向・傾斜はN0° E0° Eである。 ・ 傾斜は75°である。 ・ 上盤境界の傾斜は75°である。 ・ 花崗岩である。
	135.34~145.65		玄武岩									割れ目が多く、岩片状~一部土砂状を呈す る。 135.34~145.65m ・ 136.54~136.56m ・ 緑灰色の礫状を呈する。 136.56~140.04m ・ 花崗岩である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
173~175	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビによる最新活動面の走向傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>縞状模様については、色調で示していることから削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
E	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。
176	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>上部の貫入岩については、“岩種区分”欄に示しているため削除。(ドレイトはアブライトの誤り)</li> <li>134.77~135.34mでは、土砂状~細岩片状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
177	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、岩片状~一部土砂状と記載。</li> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部で砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
178	<ul style="list-style-type: none"> <li>“色調”欄に基づき記載。</li> <li>暗緑灰色は、緑黒色の誤り。※1</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

層位	層名	層厚	層区分		備考
			層区分	層区分	
137.44					
137.68					
138.00					
138.75					
139.67					
139.87					
140.04					
140.40					
141.18					

記事内容
<p>137.44～137.53mはφ5～10m/m破碎状の細礫主体。137.53～137.60mは締った砂状部も含む。</p> <p>137.68mで色調が変化。</p> <p>137.68mで浅は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。137.68mで深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。</p> <p>138.00～138.30m 割れ目の一部は砂状化し、厚1～2m/mの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。</p> <p>138.75m 80° 割れ目に厚さ1m/m方解石脈はさむ。この脈は138.67m・38° 割れ目で切られている。</p> <p>139.67m 75° 割れ目の一部が厚さ5m/m程度砂状化。</p> <p>139.87～140.04m 30°と80° 割れ目が細かく交差し、φ5～10m/m細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。</p>
<p>140.04～145.65m間は厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目ぞいに厚さ1～5m/m程度にφ1～3m/mlに砂状～片状化する割れ目を多く含む。</p> <p>割れ目は密着度の低い「ゆる割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。</p>
<p>141.10～141.18m 40° 割れ目ぞい砂状化、φ5～10m/m硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。</p>

標尺	高度	深	柱状	岩種	色調	岩粒区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(%)	記事
140				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・締り部である。カタクレーサイトからなる。
				花崗斑岩	灰	CL	100	3	0				・細粒灰色の砂状じり粘土状～灰白色の粘土砂状じり礫状を呈する。
				花崗斑岩	灰	CL	100	4	0				・細粒灰色砂状じり粘土。累計厚5mm
				花崗斑岩	灰	CL	100	3	0				・走向・傾斜は80° ESEである。
				花崗斑岩	灰	CL	100	3	0				・傾斜は50°である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	3	0				・上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は42°である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・130.78～131.79m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・割れ目ぞいに、砂状化している。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・133.75～134.23m
				花崗斑岩	灰	CL	100	4	0				・アプライトである。
				花崗斑岩	灰	CL	100	4	0				・133.75～133.92m
				花崗斑岩	灰	CL	100	7	0				・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
				花崗斑岩	灰	CL	100	6	0				・細粒灰色の粘土状～細灰色の硬質粘土～細粒～オリブ灰色の粘土層じり礫状を呈する。
				花崗斑岩	灰	CL	100	3	0				・傾斜は45°である。
				花崗斑岩	灰	D	100	2	0				・走向・傾斜はN1° Eである。
				花崗斑岩	灰	D	100	4	0				・傾斜は45°である。
				花崗斑岩	灰	D	100	2	0				・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は50°である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・134.15～134.23m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・破砕部である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・工断層を呈している。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・オリブ灰～緑オリブ灰色の粘土状～オリブ灰色の粘土層じり礫状を呈する。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・オリブ灰～緑オリブ灰色粘土。累計厚20mm
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・走向・傾斜はN1° E67° Eである。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・傾斜は75°である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・上層境界の傾斜は75°である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・134.23～135.54m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・右側破砕である。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・135.24～145.65m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・割れ目が多く、岩片状～一部砂状を呈する。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・135.54～136.56m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・細粒灰色の礫状を呈する。
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・136.56～140.10m
				花崗斑岩	灰	CL	100	5	0				・花崗斑岩である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
179, 180	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部割れ目沿いで砂状～礫状を呈し、粘土を挟み込むが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>色調、鉱物脈、割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> <li>138.75mで「割れ目に切られている」との記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

層別	層名	層厚	層位	割れ目				R	Q	D	備考
				傾斜	長さ	密度	色調				
141											
142											
143											
144											
145											

記事内容
141.96~142.23m 互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10m/m主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2m/m程度に砂状化。粘土は伴わない。
142.91m~144.90m 割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。
143.57m~143.70m 上端60°、下端70°割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10m/m石英を脈状に伴う。

層別	層名	層厚	層位	割れ目	色調	岩級区分	コア採取率(%)	R	Q	D	備考
141						花崗岩					
						明礬岩					
						緑泥岩					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
182	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
183	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調、鉱物の晶出、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	地質名	色	細区分				最大コア長 (cm)	RQD	岩級区分	硬軟区分	基盤岩コア観察カード 記事・硬軟区分・詳細スケッチ等
				割れ目形状	割れ目の長さ	風化	質					
0	0											
184	184.00										184	145.65~148.26m: D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する、一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。
185	145.74										185	145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布  146.65~146.91m 深度と共に残留する岩片量が増加する 146.91~147.50m 硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。
186	147.65										186	147.65m 55° 割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状~シルト状化している。
187	147.81										187	147.81~148.01m 硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。

記事内容
145.65~148.26m: D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する、一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。
145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布
146.65~146.91m 深度と共に残留する岩片量が増加する 146.91~147.50m 硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。
147.65m 55° 割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状~シルト状化している。
147.81~148.01m 硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。

標尺	高度	深	柱	岩	色	岩	コア	最大	R	コア	最大	記事	
m	m	m	図	種	調	級	採取	コア	Q	採取	コア		
				区		区	率	長	(%)	率	長		
				分		分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)		
							100	6	0			・暗緑灰色の粘土状~緑灰色の硬質粘土~緑 灰~オリブ灰色の粘土質シルト状を呈す。 ・硬質粘土土 累計厚1mm ・走向・傾斜は75°である。 ・傾斜は45°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は 50°である。 ・134.15~134.23m ・傾斜は75°である。 ・上層境界の傾斜は75°である。 ・走向・傾斜は45°である。 ・オリブ灰~暗オリブ灰色粘土 累計厚 20mm ・走向・傾斜は45°、傾斜は75°である。 ・傾斜は75°である。 ・上層境界の傾斜は75°である。 ・134.23~135.54m ・傾斜は75°である。 ・135.24~145.65m ・割れ目が多く、岩片状~一部砂状を呈す する。 ・135.54~136.56m ・暗緑灰色の硬質を呈する。 ・136.56~143.00m ・花崗岩である。 ・141.05~142.23m ・割れ目が細かく交差し、離片化している。 ・143.05~143.26m ・硬質~硬質状を呈する。 ・一部灰白~暗緑灰色の粘土質を呈す。 ・143.19~143.67m ・軟弱を呈する。 ・灰白色粘土が存在する。	
							100	3	0				
							100	2	0				
							100	4	0				
							100	6	0				
							100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・砂礫状部中の岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
185	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・岩片の量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
186	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
187	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

甚盤岩コア観察カード 観察・記録仕様・録述スケッチ等									
深尺 (m)	標高 (m)	地層 名称	地層 区分	地層 番号	観察項目			備考	録述
					色調	構造	その他		
148.26									188
148.68									189
149.19									190
149.67									191
150.22									192

記事内容	
188	148.26～149.19m: CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。
189	148.68m 50°、厚1～3m/m暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈をはさむ。 同脈は微細(φ0.1m/m)のセリサイトを少量伴う。 148.84m以深、割れ目ぞいに厚1～2m/mで砂状化する部分がある。
190	149.19～149.67m: D 割れ目ぞいに風化が拡大し締った砂状を呈する。岩片はφ10m/m前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。 下端の149.69mは40°、厚さ1m/m暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。
191	149.67～150.22m: CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。 149.67～150.22mは硬さCで割れ目の一部に砂などはさむ
192	150.22～150.52m 上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。 下端の150.52mは48°、幅1～2m/mで砂～シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。 150.52～152.10m 硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 150.52m以深は岩芯にφ1～3m/m暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。 151.40～151.60m 割れ目が密集し、φ10m/m程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。

標尺 m	深尺 m	柱状 m	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
						100	6	0			
						100	3	0			
						100	2	0			
						100	4	0			
						100	6	0			
						100	5	0			

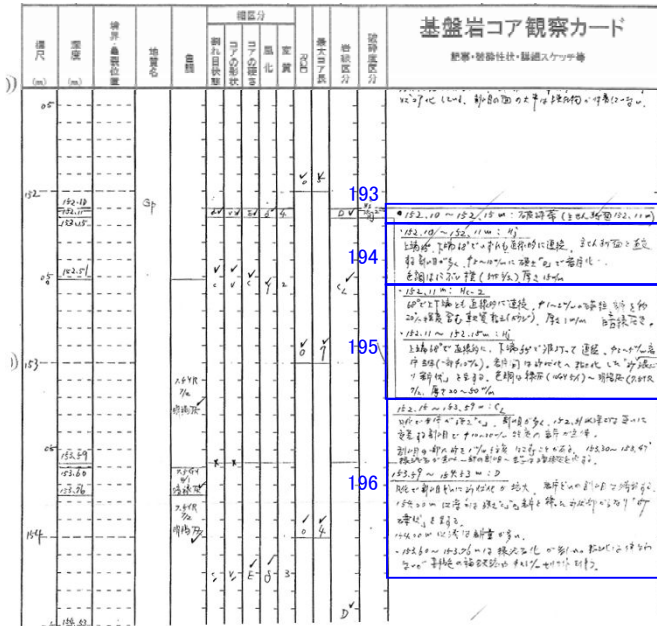
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
188	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・148.84～149.19mの割れ目沿いで砂状化するが、連続性に乏しいことから削除。
190	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
191, 192	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・149.67～150.22mの一部割れ目沿いに砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈、鉱物の晶出、挟在物の有無、色調については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-2

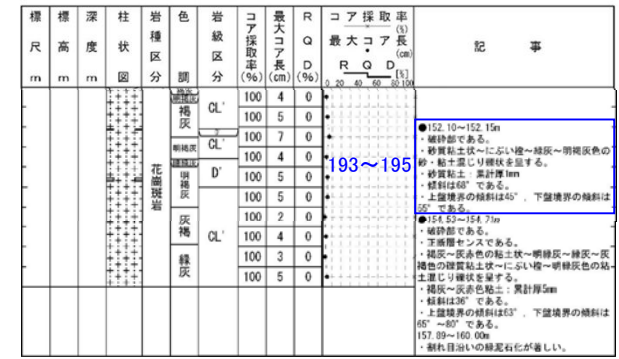
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
193 ●152.10~152.15m: 破碎帯(主せん断面152.11m) 152.10~152.11m: Hc-2 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5~10m/mに硬さ「D」で岩片化。 色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15m/m
194 152.11m: Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mmの石英粒、岩片を約20%程度含む軟質粘土(カウジ)。厚さ1m/m。暗緑灰色。
195 152.11~152.15m: Hc-2 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5mm岩片主体(一部φ10m/m)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ20~50m/m
152.15~153.59m: CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51以深では互いに交差する割れ目でφ10~20m/m程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を1m/m程度はさむことがある。153.30~153.47m緑泥石が進み、一部の割れ目に岩芯は暗緑灰色化する。
196 153.59~154.53m: D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大。岩片ぞいの割れ目は残留する。154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と締った砂状部からなり「砂礫状」を呈する。154.00mで浅はれ岩片量が多い。153.60~153.76mは緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1m/mセリサイトを伴う。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
193~195	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の見直し(砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状)</li> <li>φ1~2mmの石英粒、岩片を約20%程度含むとの記載に基づき砂質粘土状と記載。</li> <li>破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
196	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>152.15~153.59mの一部割れ目沿いで砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>色調、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目の残留の程度や岩片の量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>154.00~154.53mで砂礫状を呈するが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

層別	深度	岩種	色調	岩級	割れ目	備考	観察項目		備考
							割れ目	備考	
156	154.53						197		
	154.58						198		
	154.58						199		
	154.58						200		
	154.58						201		
	154.58						202		

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
197 ●154.53～154.71m: 破砕帯(主せん断面154.58m) 154.53～154.58m:Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2～3m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰(5G 7/1)、中央・緑灰(5G 5/1)、下端・灰褐(5YR 6/2)の縞状、厚さ40～50m/m
198 154.58m:Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～2m/m石英粒をわずか(5%以内)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は上下端側が褐灰(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の縞状を呈する。厚さ5m/m。
199 154.58～154.71m:Hj 上端は36°で直線的、下端は65～70°で湾曲しながら連続。50～70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3～5m/mに細かく片状化。岩片間には幅1～3m/mの明緑灰～緑灰色の軟質粘土脈が、またわずかに幅1m/mの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)～明緑灰(10G 7/1)、厚さ5m/m
200 154.71～155.00m:D 軟化著しいが、割れ目は残留する
201 155.00～162.00m(孔底):CL 割れ目ぞいは暗緑灰色の緑泥石化が進む。
202 特に、157.89～160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2～20m/mで砂～シルト状化する部分も認められる。

## 申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(%)	R	Q	最大コア長(%)	記事
			花崗岩	CL	100	4	0				●152.10～152.15m ・破砕帯である。 ・砂質粘土状～にぶい橙～緑灰～明緑灰色の砂・粘土混じり縞状を呈する。 ・砂質粘土・累計厚10m ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は65°である。 ●154.53～154.71m ・破砕帯である。 ・下層層セリスである。 ・緑灰～灰白色粘土状～明緑灰～緑灰～灰褐色の縞状粘土状～にぶい橙～明緑灰色の粘土混じり縞状を呈する。 ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°～60°である。 157.89～160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石化が著しい。
			花崗岩	CL	100	5	0				
			花崗岩	CL	100	7	0				
			花崗岩	CL	100	4	0				
			花崗岩	CL	100	5	0				
			花崗岩	CL	100	2	0				
			花崗岩	CL	100	4	0				
			花崗岩	CL	100	3	0				
			花崗岩	CL	100	5	0				
			花崗岩	CL	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
197～200	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位セリスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>下盤境界の傾斜65°～70°→65°～80° ※1 ※4</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>縞状模様については、色調で示していることから削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
201	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
202	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>一部で砂～シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

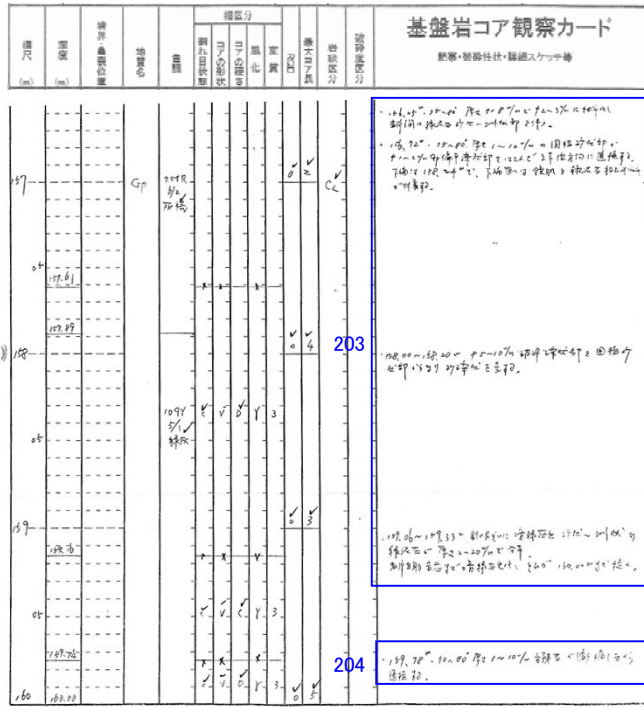


# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容	
156.25m 75~80° 厚さ7~8m/mでφ2~3m/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。 156.72m 75~80°、厚さ1~10m/mの固結砂状部がφ1~2m/mGp偏平礫状部をはさんで上下位方向に連続する。 下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。	203
158.00~158.20m φ5~10m/m破砕礫状部と固結砂状部からなり砂礫状を呈する。	
159.06~159.33m 割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20m/mで分布。 岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	
159.78m 70~80° 厚さ1~10m/m方解石が膨縮しながら連続する。	204

標高	深度	柱状	岩種	色	岩紋	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
			花崗岩	CL'		100	4	0				●152.10~152.15m ・凝結部である。 ・砂質粘土状~にぶい緑~緑灰~明緑灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・砂質粘土 厚計厚5mm ・傾斜は68°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は55°である。 ●154.55~154.73m ・凝結部である。 ・下層部センスである。 ・緑灰~灰黄色の粘土状~明緑灰~緑灰~灰褐色の硬質粘土状~にぶい緑~明緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・傾斜は30°である。 ・上層境界の傾斜は63°、下層境界の傾斜は68°~80°である。 ●157.09~160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石が着しい。
			花崗岩	CL'		100	5	0				
			花崗岩	CL'		100	7	0				
			花崗岩	D'		100	4	0				
			花崗岩	D'		100	5	0				
			花崗岩	CL'		100	5	0				
			花崗岩	CL'		100	2	0				
			花崗岩	CL'		100	4	0				
			花崗岩	CL'		100	3	0				
			花崗岩	CL'		100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
203	<ul style="list-style-type: none"> <li>156.25mに砂~シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>156.72mで固結砂状を呈するが、直線性に乏しいことから削除。</li> <li>158.00~158.20mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>159.06~159.33mで砂~シルト状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
204	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-2

## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	採取深度位置	地層名	急傾	細区分				R	Q	D	備考
					割れ目状態	コアの硬さ	風化	変質				
160.00	160.20											
160.50												
161.00			Gp									
161.50												
161.80												
162.00												

**基盤岩コア観察カード**  
粗準・破砕性状・詳細スケッチ等

160.00～161.68m 緑泥石化は弱くなり、一部の割れ目が浅緑灰色化する程度であるが砂状～シルト状化を伴う。

160.81m 70° 厚さ5m/m白色鉱物脈(方解石)が分布し、その上端と下端に厚さ1～3m/m固結砂状化した緑泥石を伴う。

160.98～161.81mはφ5～30m/mの岩片に砕けて採取されている。各岩片のうち、一部には砂や粘土の薄層が付着することがある。

161.68m以深は割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化。割れ目には緑泥石の砂～粘土がフィルム状に付着することが多い。全体にφ10～30m/mと細かく砕けているが、岩片の硬さは「C」と硬質のものが主体。(孔底)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
160.00～161.68m 緑泥石化は弱くなり、一部の割れ目が浅緑灰色化する程度であるが砂状～シルト状化を伴う。
160.81m 70° 厚さ5m/m白色鉱物脈(方解石)が分布し、その上端と下端に厚さ1～3m/m固結砂状化した緑泥石を伴う。
160.98～161.81mはφ5～30m/mの岩片に砕けて採取されている。各岩片のうち、一部には砂や粘土の薄層が付着することがある。
161.68m以深は割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化。割れ目には緑泥石の砂～粘土がフィルム状に付着することが多い。全体にφ10～30m/mと細かく砕けているが、岩片の硬さは「C」と硬質のものが主体。(孔底)

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (3) 最大コア長 (cm)	記事
			花崗斑岩		D	100	5	0				・砂質粘土、累計厚1m ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は25°である。 ・φ15.5～154.7mm ・破砕部である。 ・正歯層センスである。 ・緑泥～灰色の粘土状～暗緑～灰色の砂質粘土等～灰色～暗緑灰色の粘土層を伴う。 ・緑泥～灰色粘土、累計厚5mm ・傾斜は30°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は65°～80°である。 157.89～160.00m ・割れ目ぞいの緑泥石化が著しい。
			花崗斑岩		D	100	5	0				
			花崗斑岩		CL	100	2	0				
			花崗斑岩		CL	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
205	・余掘り深度分のため削除。

**H27-B-3**

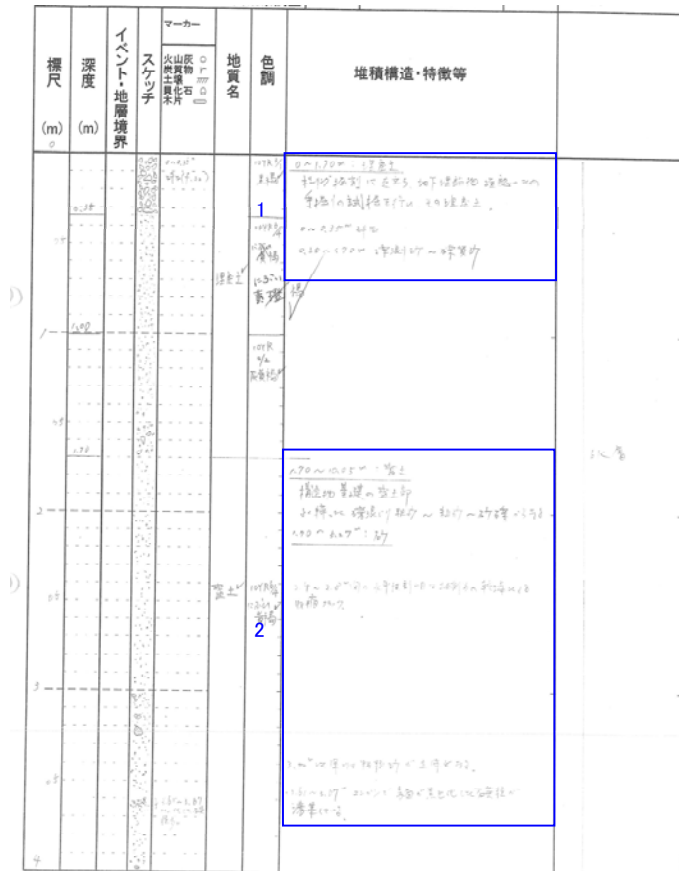
余白

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

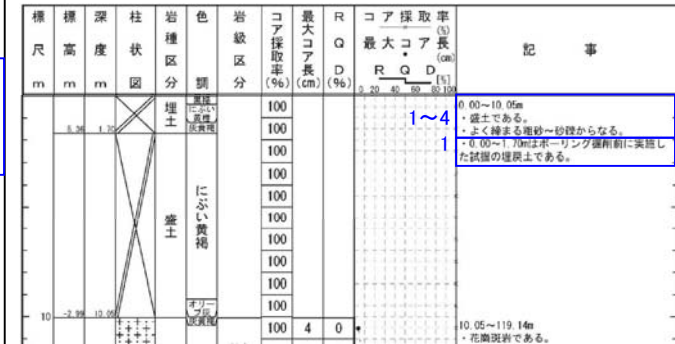
## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



スケッチ: 濃はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 余線等

記事内容
0~1.70m 埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂
1.70~10.05m 盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m 砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.5m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガで表面が黒色化した石英粒が濃集している。



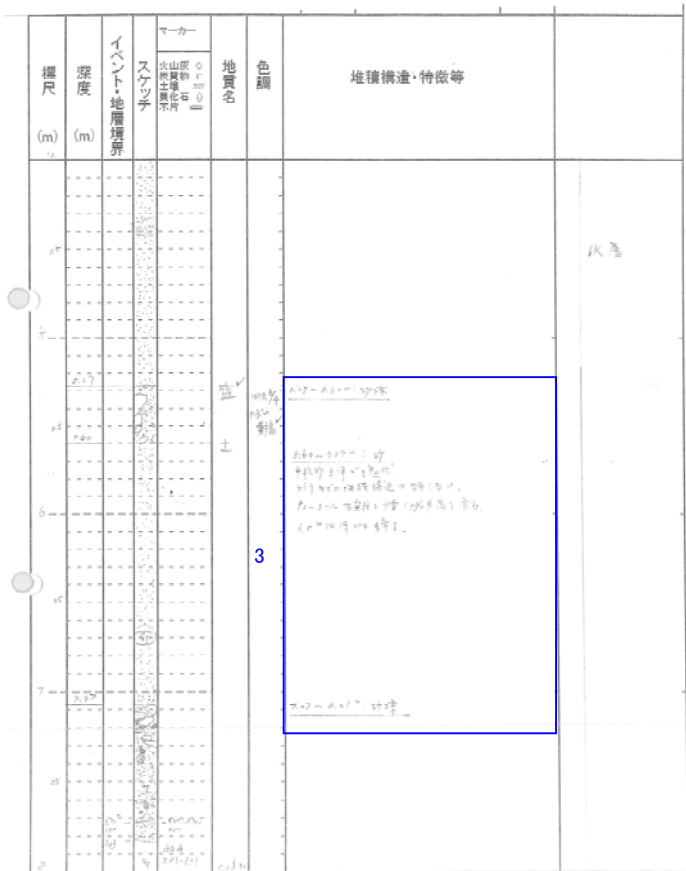
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

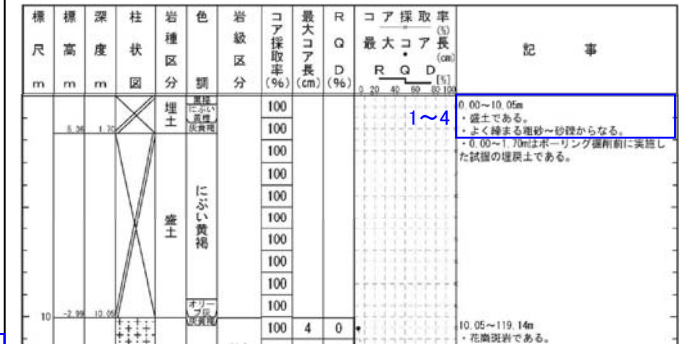
## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



スケッチ: 確はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 確種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭 --- 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 糸線等

記事内容
<p>5.27~5.60m 砂礫 5.60~7.07m 砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。 6.5m以深では締る。 7.07~8.01m 砂礫</p>



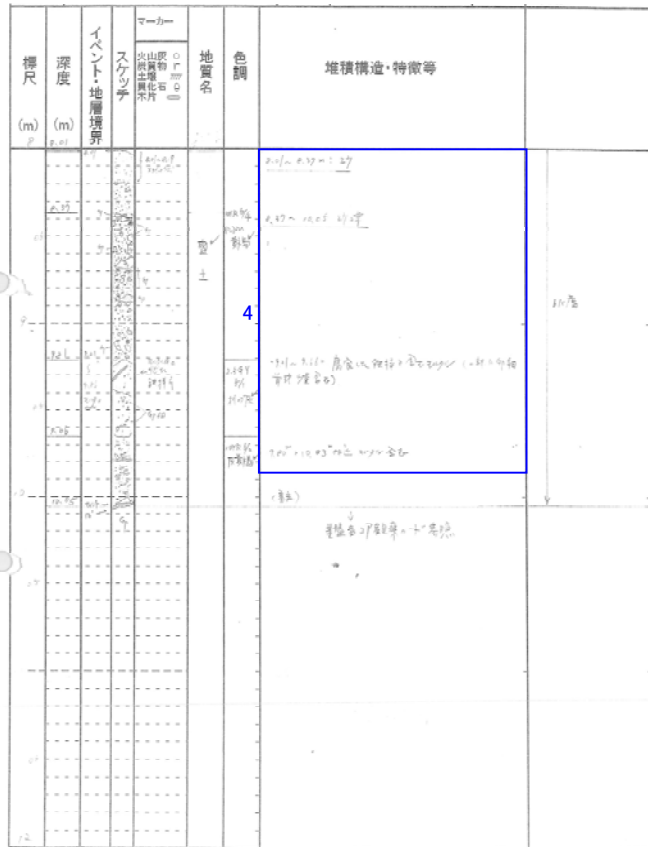
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。</li> </ul>

# H27-B-3

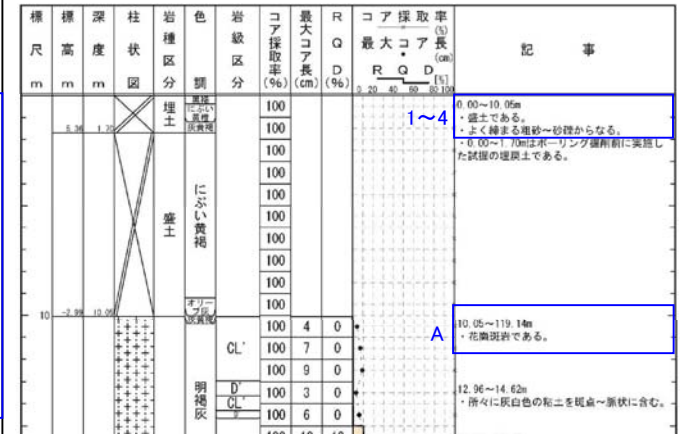
## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図



記事内容
8.01~8.37m 砂
8.37~10.05m 砂礫
9.21~9.66m 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にGp細骨材少量含む)
9.80mと10.03m付近モルタル含む
(着岩)



スケッチ: 満はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 種類は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 発露等

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。</li> <li>当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂～砂礫からなるまとめ書き。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層	地質	硬さ				RQD	最大コア長	記事
				硬さ	割れ目	挟在物	色調			
0.00	0.00									
0.05	0.05									
1.0	1.0									
10.0	10.0									
11.0	11.0									
12.0	12.0									
13.0	13.0									
14.0	14.0									
15.0	15.0									
16.0	16.0									
17.0	17.0									
18.0	18.0									
19.0	19.0									
20.0	20.0									

記事内容
5 φ1~3m/m石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。 長石は白濁化することが多い。
6 10.05~12.96m: CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。
7 10.70~10.80mに硬さ「C」の硬質岩片が残留する。 11.20~11.82m 硬さ「C」主体で挟在物も少ない。 一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。 11.40~11.55m 割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。 11.82~12.00m 上下位よりも軟化する。 下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。 12.00~12.96m 硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1m/m程度と薄く砂状化することが多い。 また、各割れ目は軽度マンガン鉱染受け、面の一部は黒褐色化する。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	R Q D	
10	10.05				CL	100	4	0			10.05~11.14m ・花崗斑岩である。	
	10.70				CL	100	7	0			12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑晶～脈状に含む。	
	11.40				CL	100	9	0			15.33~15.43m ・軟質化著しい。	
	11.82				CL	100	10	10			18.05~18.47m ・珪質化している。	
	11.97				CL	100	5	0			20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。	
	12.00				CM	100	14	24				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
5	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
6	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の挟在物については、補足的なものであるため削除。 ・一部に砂や粘土を挟在するが、系統的でなく連続性に乏しいことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
7	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、マンガン、割れ目の色調については、補足的なものであるため削除。 ・11.97~12.00mで粘土化が進んでいるが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・12.00~12.96mで割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。



## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層位	層名	岩質		色		割れ目	備考	観察者	観察日	観察時間	コア採取		備考			
				硬さ	組織	R	Q											
	12.96																	
	13.64																	
	14.62																	
	15.33																	
	16.01																	
	17.04																	
	18.06																	
	19.08																	
	20.04																	

記事内容
12.96～14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状～幅1～3m/mの脈状に含んでいる。
13.64～14.30mは硬さ「C」岩片主体で20～40°の密着度の低い割れ目が同方向に1～2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30～14.62mは上端17° 幅1～5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1～2m/mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
14.62～20.04m: CL 20～40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R(%)	Q(%)	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図							R	Q	D
	10				CL	100	4	0				10.05～119.14m ・花崗斑岩である。
					CL	100	7	0				12.96～14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点～脈状に含む。 15.33～15.43m ・軟質化著しい。 18.06～18.47m ・柱質化している。 20.04～20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
					CL	100	9	0				
					D	100	3	0				
					CL	100	6	0				
					CL	100	10	10				
					CL	100	7	0				
					CL	100	8	0				
					CL	100	5	0				
					CL	100	9	0				
					CM	100	14	24				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"><li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li><li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li><li>・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。</li><li>・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。</li></ul>
9	<ul style="list-style-type: none"><li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li><li>・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li><li>・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li><li>・14.30～14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li><li>・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li></ul>
10	<ul style="list-style-type: none"><li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li><li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li><li>・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。</li></ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	細区分				R	Q	D	最大 コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
					硬軟	割れ目	付着	その他						
11	16.49													記事11
12	15.33													記事12
13	15.73													記事13

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33～15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73～15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい5～15m/m半固結状 白色シルト～粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76～16.87m φ10～20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1～2m/m程度砂状化。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	Q	D	最大 コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
				明褐色	D	100	3	0					12.96～14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状に含む。
					CL	100	6	0					15.33～15.43m 軟化著しい。
					CL	100	10	10					18.05～18.47m 珪質化している。
					CM	100	7	0					20.04～20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
					CM	100	8	0					
					CM	100	5	0					
					CM	100	9	0					
					CM	100	14	24					
					CM	100	3	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト～粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76～16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深尺 (m)	深尺 (m)	岩種	色調	割れ目				割れ目 深さ (mm)	割れ目 長さ (mm)	割れ目 角度 (°)	割れ目 形状	割れ目 方向	割れ目 密度	割れ目 状態	割れ目 説明
				割れ目 深さ (mm)	割れ目 長さ (mm)	割れ目 角度 (°)	割れ目 形状								
17	17.13													14	17.13~17.31m 割れ目の一部に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。
15	17.40													15	17.40~19.00m 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。 17.85~18.00m 割れ目が交差、一部φ20~30m/mに岩片化 粘土や砂ははさまない。
16	18.05													16	18.05~18.47m 珪化変質により石英量多くなり硬化している。
17	18.43													17	18.43~20.04m 一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。 18.90m 50° 割れ目幅1~5m/m淡黄褐色砂はさむ。
18	19.59													18	19.59m 40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られている。 80° 割れ目は19.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じて行き、砂の挟雑物も分布しなくなる。

記事内容
14 17.13~17.31m 割れ目の一部に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。
15 17.40~19.00m 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。 17.85~18.00m 割れ目が交差、一部φ20~30m/mに岩片化 粘土や砂ははさまない。
16 18.05~18.47m 珪化変質により石英量多くなり硬化している。
17 18.43~20.04m 一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。 18.90m 50° 割れ目幅1~5m/m淡黄褐色砂はさむ。
18 19.59m 40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られている。 80° 割れ目は19.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じて行き、砂の挟雑物も分布しなくなる。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(15)	記事
m	m	m	図	区分			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					明褐色	D	100	3	0				12.96~14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状に含む。
					明褐色	CL	100	6	0				15.33~15.43m 軟質化著しい。
					明褐色	CL	100	10	10				16 18.05~18.47m 珪質化している。
					明褐色	CL	100	7	0				20.04~20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
					明褐色	CL	100	8	0				
					明褐色	CL	100	5	0				
					明褐色	CM	100	14	24				
					明褐色	CM	100	3	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
14	一部割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
15	割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
16	鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
17	マンガン、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 18.90mに砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
18	割れ目沿いに砂状化し、割れ目は切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 19.65mで割れ目沿いに砂状化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
標本・観察性状・詳細スケッチ等									
層位	深度	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D
19	20.04~20.93m	CM			100	14	24		
20	20.93~26.70m	CL			100	3	0		
21	21.55~21.65m				100	8	0		
21	21.70~22.40m				100	5	0		
21	22.03~22.63m				100	10	10		
21	22.10~22.45m				100	18	18		
22	22.50~22.64m				100	5	0		
22	22.50~22.64m				100	6	0		
22	22.50~22.64m				100	4	0		

記事内容	
19	20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。 長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。 割れ目挟在物は殆ど分布しない。
20	20.93~26.70m: CL 45°前後の割れ目主体。一部で70~90°の高角度割れ目と交差。 割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また処々幅1~2m/m軟質な白色粘土脈をはさむ。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の間では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。
21	21.55~21.65m 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。 21.70~22.40m 高角度割れ目を主体に、厚さ1m/m以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1~3m/mの軟質な白色粘土脈が分布。 22.03~22.63m 70~90°で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10m/m砂状化し、幅1~2m/mの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m 一部に硬さ「C」岩片伴う。
22	22.50~22.64m 上端60°幅2~3m/m褐色粘土脈、下端45°幅1m/m褐色砂に囲まれて軟化著しく、一部で幅0.5m/m白色粘土脈を網状に伴う。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
20				花崗斑岩	明褐色	CM	100	14	24			19	18.05~18.41m ・珪質化している。	
				明褐色	CL	100	3	0				22	20.04~20.93m ・珪質であるが、密着度の低い割れ目を含む	
				明褐色	D	100	8	0					22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・上端に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土多量状を含む。	
				明褐色	CL	100	10	10					22.50~22.64m ・硬軟部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土土を呈する。 ・淡黄色粘土: 1mm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである ・傾斜は43°である。 ・上層境界の傾斜は43°、下層境界の傾斜は	
				明褐色	CL	100	5	0						
				明褐色	CL	100	6	0						
				明褐色	CL	100	4	0						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土脈を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21.55~21.65mで砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>・マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部で粘土脈を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土脈や砂の傾斜や幅については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・表現の見直し(網状→脈状)</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	RQD		最大コア長		記事
					長さ	割合	長さ	割合	
23	22.91~23.49m	明礬灰			5	0	14	24	23
24	24.37m	明礬灰			3	0	10	10	24
25	24.53~26.70m	明礬灰			8	0	5	0	25

記事内容
23 22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53mは軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD (%)	コア採取率(%)				記事
									R	Q	D	最大コア長	
20		明礬灰			CM	100	14	24	18	05	18	43	18.05~18.43m ・珪質化している。 20.04~20.93m ・珪質であるが、両者の低い割れ目を含む。 22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・上層に褐色の粘土脈。下層に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土を帯状に含む。 ●25.70~26.90m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。 ・淡黄色粘土 1mm ・走向・傾斜はN10° E61° Wである ・傾斜は43° である。 ・上層境界の傾斜は43°、下層境界の傾斜は
									100	9	0	0	
									100	3	0	0	
									100	5	0	0	
									100	6	0	0	
									100	10	10	0	
									100	18	18	0	
									100	8	0	0	
									100	5	0	0	
									100	6	0	0	
30		明礬灰			CL	100	4	0	0	0	0	0	
									0	0	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

層別 深さ (m)	境界 位置 (m)	境界 性状	観察 項目	細区分				RQD	最大 コア 長さ (m)	岩 級 区 分	基盤岩 コア 観察 カード
				割れ 目 性状	割れ 目 形状	割れ 目 長さ	割れ 目 角度				
26	26.22									26 25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。 25.80m以深で割れ目多くなる。 割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	
27	26.70									27 26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m) 28 ●26.70~26.90m 破砕帯(主せん断面26.70m) 26.70m:Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m以下。 26.70~26.90m:Hb 上端43° で直線的に下端54° でやや湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2)、厚さ16.0~18.0m/m	
28	27.00									28 26.90~27.57m:D 27.00m以浅は砂礫状。27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質を岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m:CL 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。	
29	28.12									29 ●28.12~28.14m 破砕帯(主せん断面28.12m) 28.12m:HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。 28.12~28.14m:Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。	
30	28.12									30 28.12m:HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。 28.12~28.14m:Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。	
31	28.12									31 ●28.12~28.14m 破砕帯(主せん断面28.12m) 28.12m:HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。 28.12~28.14m:Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。	
32	28.12									32 ●28.12~28.14m 破砕帯(主せん断面28.12m) 28.12m:HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。 28.12~28.14m:Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。	

記事内容
25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。 25.80m以深で割れ目多くなる。 割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m)
●26.70~26.90m 破砕帯(主せん断面26.70m)
26.70m:Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m以下。 26.70~26.90m:Hb 上端43° で直線的に下端54° でやや湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2)、厚さ16.0~18.0m/m
26.90~27.57m:D 27.00m以浅は砂礫状。27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質を岩片で形成されていると推定される。
27.57~28.12m:CL 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。
●28.12~28.14m 破砕帯(主せん断面28.12m)
28.12m:HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。 28.12~28.14m:Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
26	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目については、系統的な変位が認められないため削除。</li> </ul>
28, 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb及びHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>26.90~27.00mで砂礫状を呈するが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>27.00~27.57mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>27.57~28.12mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
31, 32	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり、ないし粘土質岩片状→粘土混じり礫状~粘土質礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>

凡例 (m)	深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	採取位置 (m)	採取深度 (m)	細区分		破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
																				細区分	破砕度区分			
	28.14																							28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
	29.10																							●29.10~29.12m破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
	29.11																							29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
	29.12																							29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。

記事内容	
33	28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
34	●29.10~29.12m破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
35	29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
36	29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。
37	



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
34~36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・下盤境界の見かけの傾斜について、55°との追記があるが、50°で問題ないと判断し反映せず。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・縞状模様については、色調で示していることから削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>

基盤岩コア観察カード										
記号・略称・単位・詳細スケッチ等										
深さ (m)	層名	層厚 (m)	層色	層質	層理	割れ目	割れ目径 (mm)	割れ目深さ (mm)	割れ目形状	備考
30.55										38
29.15										39
31.62										40
34.20										41

記事内容	
38	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆるぎ割れ目が多い。 29.15～29.60m、30.30～30.56m 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。
39	30.56～32.21m: CH 堅硬、割れ目挟雑物は一部を除き分布しない。 割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 コア中には密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目は殆んど分布しない。
40	31.30m付近は割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。 31.62～31.66m 上下端とも50° 割れ目に囲まれ軟化する。 上下端には各々幅2m/m、0.5m/mの軟質褐色粘土脈をはさむ。 32.11m 40° 割れ目をはさみ厚さ15～20m/m緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。 φ0.5m/m以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。 32.21～33.09m: CM 一部で挟在物をはさむがはさまない割れ目が主体。 密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。 33.30～33.53m 割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 32.53m 45° 厚2m/m軟質黄褐色粘土はさみ、その上下盤には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。 33.09～34.20m: CL 60～90° の高角度割れ目が多く、一部で分岐～収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1～2m/mの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。 34.20m 40° 割れ目は厚さ2～3m/m、やと締った灰白色粘土脈をはさむ。
41	34.20～35.94m: CM 殆んどの割れ目に挟雑物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多い。 白濁化した長石が多い。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
38	・一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
39	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
40	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調、鉱物の晶出、挟在物の有無、割れ目の密着状態・開口状況、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
41	・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・割れ目の挟在物の有無、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。



# H27-B-3

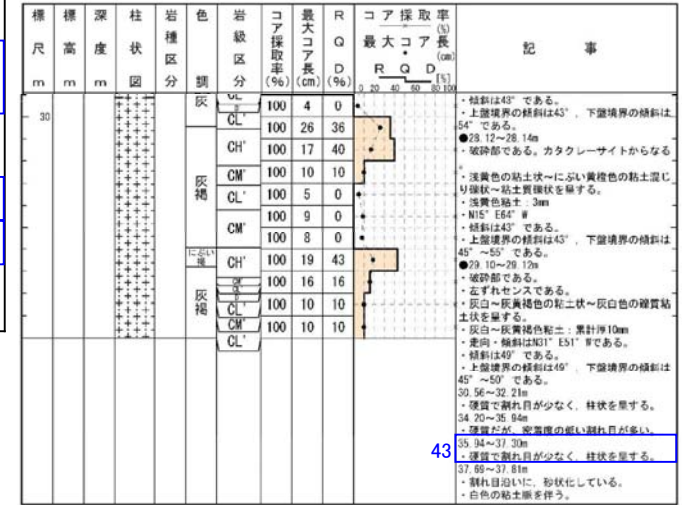
## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (5m)	深度 (m)	採得・採取位置	地層	色	割れ目 の状況	細区分	備考	基盤岩コア観察カード	
								記事・観察性状・詳細スケッチ等	採取区分
30	35.31							42	35.31m 60° 割れ目ぞい厚さ3~5m/m砂状化。
	35.47							42	35.47m 5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。
	35.94~37.30							43	35.94~37.30m: CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。
	36.07~36.32							44	36.07~36.32m 割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
35.31m 60° 割れ目ぞい厚さ3~5m/m砂状化。
35.47m 5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。
35.94~37.30m: CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。
36.07~36.32m 割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
42	・一部割れ目扱いに砂状化し、割れ目が切られるとあるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
43	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
44	・マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	採取位置	地層	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
				岩級区分	岩種	岩質	岩色									
37	37.03															37.03m 57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3m/m前後が砂～細片化する。この57°の割れ目は交差する割れ目を切っている(変位量不明)。
	37.30															37.30～37.55m: CM 直上位に比べ岩片がやゝ軟化する。
	37.55															37.55～37.69m: CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。
	37.69															37.69～37.81m: D
	37.81															50～60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。
	38.21															37.81～38.50m: CL 38.21m以深では50°前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1～2m/m白色～褐色軟質粘土脈も伴う。
	38.50															38.50～39.14m: CM 一部でゆ着割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
	39.14															39.14～40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1～3m/mではさむことが多い。

記事内容
37.03m 57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3m/m前後が砂～細片化する。この57°の割れ目は交差する割れ目を切っている(変位量不明)。
37.30～37.55m: CM 直上位に比べ岩片がやゝ軟化する。
37.55～37.69m: CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。
37.69～37.81m: D
50～60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。
37.81～38.50m: CL 38.21m以深では50°前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1～2m/m白色～褐色軟質粘土脈も伴う。
38.50～39.14m: CM 一部でゆ着割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
39.14～40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1～3m/mではさむことが多い。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R	Q	D	最大 コア 長 (cm)	記事
30			灰	CL	100	4	0				・傾斜は43°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54°である。 ●29.17～29.18m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
			灰	CH	100	26	36				・淡黄色の粘土状～ぬい黄色の粘土混じり塊状～粘土質塊状を呈する。 ・淡黄色粘土、3mm ・傾斜は43°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45°～50°である。 ●29.10～29.17m ・破砕部である。
			灰	CM	100	10	10				・互ずれセンスである。 ・灰白～灰黄褐色の粘土状～灰白色の硬質粘土状を呈する。
			灰	CL	100	5	0				・傾向・傾斜はN11°E61°である。 ・傾斜は49°である。 ・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°～50°である。 39.56～39.21m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			灰	CH	100	19	43				34.20～35.64m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。 35.34～37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			灰	CL	100	16	16				37.69～37.81m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。
			灰	CH	100	10	10				40.79～41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・37.03mで割れ目を切っているとあるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・粘土脈の幅については、直線性に乏しく、ばらつきがあるため削除。</li> </ul>
47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> </ul>
48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部割れ目ぞいに砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・39.14～40.79mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層名	細区分						硬さ 区分	観察 区分	備考
				割れ目 状態	風化 状態	変質	RD	RD	RD			
	40.14										50	40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
	40.79										51	40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
	41.30										52	41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部ではすでに開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
	41.83										53	41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破碎帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m 上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

記事内容
40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部ではすでに開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。 41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破碎帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m 上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
					CL	100	11	11				40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。  ●42.95~42.91m ・破碎帯である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・硬質じり粘土状~明褐色の 粘土質を呈する。 ・灰白色粘土・高岭石層 ・走向・傾斜はNS71° である。 ・傾斜は45° である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は 65° である。 46.14~46.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目ぞいに、砂状~細片化してい る。
					CM	100	9	0			51	
					CL	100	8	0				
					CL	100	13	33				
					CM	100	11	11				
					CL	100	12	12				
					CL	100	11	21				
					CM	100	11	11				
					CL	100	6	0				
					CL	100	7	0				
					CL	100	4	0				
					CL	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・41.83~41.95mで割れ目沿いに砂状化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級およびその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・42.36~42.40mで割れ目沿いに砂状化するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>



# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地質 記号	細区分		備考	基盤岩コア観察カード 記事・観察性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	風化		
45.00	45.40						58 45.00~45.40m: CM 45.00~45.40mに80~90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41~45.50m 割れ目が交差し、一部φ5~20m/mに片状化するが砂や粘土ははさまない。 45.66~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。 45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。
46.14	47.58						59 46.14~47.58m: CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。 割れ目挟雑物は殆んど分布しない。 47.00~47.23m間では割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m間は上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45°割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5m/m程度砂状~細片状化。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。
48.61	56.69						60 48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10~30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15m/m。 50.18m~35°厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。 灰白~褐色粘土も伴っている。

記事内容
( )~45.66m: CM 45.00~45.40mに80~90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。 45.41~45.50m 割れ目が交差し、一部φ5~20m/mに片状化するが砂や粘土ははさまない。 45.66~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。 45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。
46.14~47.58m: CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。 割れ目挟雑物は殆んど分布しない。 47.00~47.23m間では割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。 47.24~47.29m間は上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10m/mに片状化する。 岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45°割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5m/m程度砂状~細片状化。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い割れ目も含む。 割れ目挟在物は分布しない。
48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含んでいる。 割れ目ぞいに厚さ10~30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。 48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15m/m。 50.18m~35°厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。 灰白~褐色粘土も伴っている。

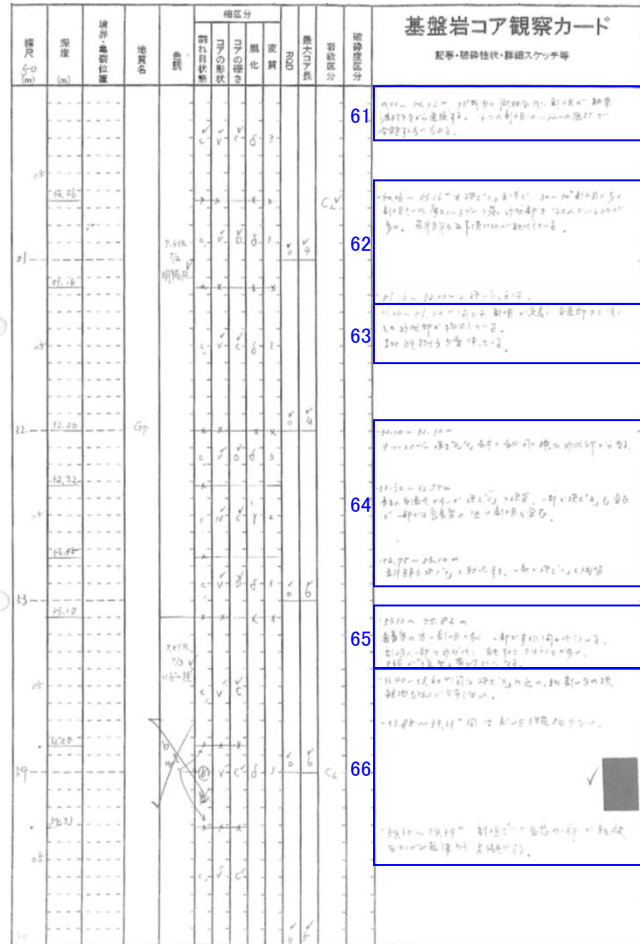
標尺 (m)	深度 (m)	柱状 区分	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
40.79	41.83m		花崗斑岩	CL	100	11	11				40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
				CM	100	9	0				●42.05~42.91m ・硬質である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・塊状じり粘土状~明確灰色の粘土層じり塊状を呈する。 ・灰白色粘土 累計厚50m ・走向・傾斜は概71°である。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。
				CL	100	8	0				
				CM	100	13	33				
				CL	100	11	11				
				CL	100	12	12				
				CM	100	11	11				
				CL	100	11	11				
				CM	100	11	11				
				CL	100	6	0				
				CM	100	7	0				
53.10	55.82m		花崗斑岩	CL	100	6	0				53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目ぞいに砂状化し白色粘土を伴う。
				CL	100	5	0				●56.09~56.72m ・硬質である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~淡黄~黄灰色の砂・粘土層じり塊状を呈する。 ・淡黄色粘土 累計厚10m ・走向・傾斜は概85°である。 ・傾斜は21°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。
				CL	100	3	0				
				CL	100	2	0				
				CL	100	5	0				
				CM	100	5	0				
				CL	100	3	0				
				CM	100	5	0				
				CL	100	7	0				
				CL	100	4	0				
				CM	100	7	0				
				CL	100	9	0				●58.30~58.90m ・硬質である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の塊状じり粘土状~にぶい黄褐色の硬質粘土状~褐色の粘土層じり塊状を呈する。 ・灰白色塊状じり粘土 累計厚15m ・走向・傾斜は概111°、654°である。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。
				CL	100	6	0				
				D	100	2	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
58	<ul style="list-style-type: none"> <li>45.00~45.40mでは、高角度割れ目で切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>45.41~45.50mで片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>45.66~46.14mで割れ目ぞいに細片~砂状化しているが、いずれも周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>45.96~46.14mで脈状に粘土を含むが、いずれも連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、下端深度を48.61m、硬質と記載。</li> <li>“コアの形状”欄に基づき、割れ目が多いと記載。</li> <li>割れ目の挟在物の有無、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>細片化した岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
60	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>一部割れ目ぞいに砂状~細片状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

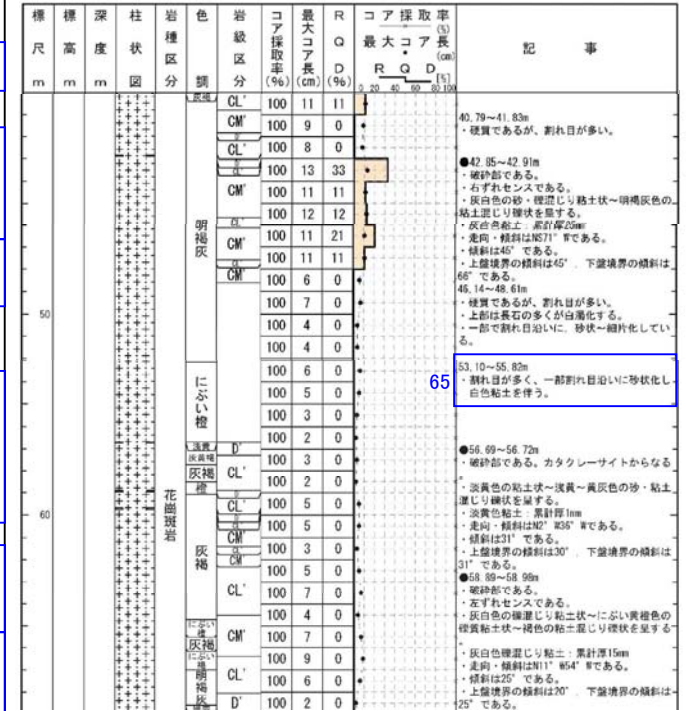
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図



記事内容
61 50.00~50.42m 70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。
62 50.56~51.16mは硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3m/mと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟化している。
63 51.16~52.00mは硬さ「C」主体。 51.35~51.64m間では割れ目が交差し差部を主体として砂状部が拡大している。 また白色粘土も少量伴っている。
64 52.00~52.32m φ10~20m/m硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。 52.32~52.75m 長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。 52.75~53.10m 岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。
65 53.10~55.82m 密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。 割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。 色調が「橙色」を帯びようになる。 53.40~53.60m間は硬さ「B」に近い。また割れ目の挟雑物も殆んど分布しない。 53.85~54.31m間は割れ目挟在物少ない。
66 54.35~54.59m 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
61	・割れ目の傾向については、当該区間の周囲と差異がないため削除。 ・割れ目の傾斜や割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。
62	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・50.56~51.16mの一部割れ目沿いで砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・一部割れ目沿いで砂状化や粘土の挟在がみられるが、連続性や直線性に乏しく、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
64	・52.00~52.32mの一部で締まった砂状を呈するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
65	・割れ目の密着状態・開口状況、色調については、補足的なものであるため削除。
66	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
記号・観察性状・詳細スケッチ等									
67	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。						
68	55.08	56.69	25°厚さ5~10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。						
69	55.82	56.30	割れ目に挟み物が分布しないことが多い。						
70	56.00	56.72	間を73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状~岩片状を呈する。						
71	56.69	56.72	●56.69~56.72m 破砕帯(主せん断面56.72m)						
71	56.69	56.72	56.69~56.72m:Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ3~10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は浅黄(2.5Y6/3)~黄灰(2.5Y6/1)、厚さ20m/m						
71	56.72	57.29	56.72m:Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m/m						
72	56.72	57.29	56.72~57.29m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。						
73	56.94	57.02	56.94~56.97m、57.00~57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。						
73	57.29	58.89	57.29~58.89m:CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟み物が多い。						
73	58.51	58.68	58.51m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。						
73	58.68	58.82	58.68m・10°幅1~3m/m、58.82m・45°幅7m/mの石英脈分布。						

記事内容	
67	55.08~55.55m 割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。
68	55.08m 25°厚さ5~10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。
69	55.82~56.69m 割れ目に挟み物が分布しないことが多い。
70	56.00~56.30m 間を73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状~岩片状を呈する。
71	●56.69~56.72m 破砕帯(主せん断面56.72m)
71	56.69~56.72m:Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。φ3~10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は浅黄(2.5Y6/3)~黄灰(2.5Y6/1)、厚さ20m/m
71	56.72m:Hc-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m/m
72	56.72~57.29m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。
73	56.94~56.97m、57.00~57.02mはマンガン鉱染により黒褐色化。
73	57.29~58.89m:CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟み物が多い。
73	58.51m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。
73	58.68m・10°幅1~3m/m、58.82m・45°幅7m/mの石英脈分布。

標尺	高さ	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア率(%)	記事
				花崗斑岩	にふい橙	D'	100	6	0			53.10~55.82m 割れ目が多く、一部割れ目ぞいに砂状化し白色粘土を伴う。	
						D'	100	5	0				
						D'	100	3	0				
						D'	100	2	0				
						D'	100	3	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	7	0				
						D'	100	4	0				
						D'	100	7	0				
						D'	100	9	0				
						D'	100	6	0				
						D'	100	2	0				
						D'	100	4	0				
						D'	100	2	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
67	55.08~55.55mの一部割れ目に砂や粘土を挟み込むが、記事No.65でまとめ書きしていることから削除。
68	粘土と砂状部を挟み込むが、周辺の岩盤に劣化が認められないことから削除。
69	割れ目の挟み物の有無については、補足的なものであるため削除。 一部礫状~岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
70, 71	カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 表現の見直し(砂・粘土混じり岩片状→砂・粘土混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
72	岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 一部で礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
73	マンガン、変色、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目に砂を挟み込むが、周辺の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

孔深 (m)	深度 (m)	層位	地質	地質	細区分		R Q D	最大コア長 (cm)	採取率 (%)	採取位置	採取方法	採取時期	採取者	採取回数	採取場所	基盤岩コア観察カード	
					岩級区分	岩種区分											
74	58.89																記事内容
75	58.94																記事内容
76	58.96																記事内容
77	58.98																記事内容
78	59.69																記事内容
79	59.69																記事内容
80	59.75																記事内容
81	59.75																記事内容

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
74 ●58.89～58.98m 破砕帯(主せん断面・58.98m) 58.89～58.94m:Hj 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°をこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5m/mに細片化、岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は褐灰(10YR4/1)、厚さ40m/m。
75 58.94～58.96m:Hb 25°で上下端ともに波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈す。 色調はにぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ15m/m。
76 58.96～58.98m:Hc-2 25°で上下端とも波打って連続。φ2～3m/m石英粒、硬質岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリブ色おびる灰白(7.5Y8/2)、厚さ15m/m。
77 58.98～59.69m:CL 59.50m以深では粘土をはさむことが多い。
78 ●59.69～59.75m 破砕帯(主せん断面59.69m)
79 59.69m:Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐(10YR5/6)、厚さ1m/m
80 59.69～59.75m:Hj 上端52°、下端37°でとも直線的に連続。φ5～20m/m硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～60m/m。
81 59.75～60.00m:CL 割れ目挟在物の分布は少ない。

申請書用柱状図

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
60			花崗斑岩	にぶい橙	D'	100	6	0					53.10～55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状化し白色粘土を伴う。
				灰褐色	CL'	100	3	0					
				灰褐色	CL'	100	2	0					
				灰褐色	CL'	100	3	0					
				灰褐色	CL'	100	2	0					
				灰褐色	CL'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	3	0					
				灰褐色	CL'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	7	0					
				灰褐色	CL'	100	4	0					
				灰褐色	CL'	100	9	0					
				灰褐色	CL'	100	6	0					
				灰褐色	D'	100	2	0					
				灰褐色	CL'	100	4	0					
				灰褐色	D'	100	2	0					
				灰褐色	CL'	100	3	0					
				灰褐色	D'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	5	0					
				灰褐色	CL'	100	7	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
74～76	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>φ2～3mm石英粒、硬質岩片を5～10%含むとの記載に基づき礫混じり粘土状と記載。</li> <li>褐灰色→褐色</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
78～80	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
81	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

尺貫	メートル	層位	層位番号	層名	層厚	細区分		R	Q	D	備考
						硬さ	割れ目				
60.00	61.40										82
61.40	61.67										82
61.67	62.23										82
62.23	64.25										83
64.25	62.82										84
62.82	62.93										84
62.93	63.03										85
63.03	64.17										85
64.17	64.52										85

記事内容
60.00～61.40m: CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 61.40～61.67m: CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。 61.47～61.51m マンガン鉱染により黒褐色化する。 61.67～62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。
62.23～64.25m: CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。 硬さ「D」の間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。
62.82～62.93mはφ5～20m/m硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1～2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。
63.03m 30° 割れ目ぞいに厚さ5～15m/mがマンガン鉱染を受ける。 63.04～64.17m 硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む 63.60～63.70m間はコアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。 64.17～64.52m 割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。

標尺	高さ	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	備考
m	m	m	円	区分		区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
60				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0			
						CL	100	5	0			
						CM	100	5	0			
						CL	100	3	0			
						CL	100	5	0			
						CL	100	7	0			
						CL	100	4	0			
						CM	100	7	0			
						CL	100	9	0			
						CL	100	6	0			
						D	100	2	0			
						CL	100	4	0			
						D	100	2	0			
						CL	100	3	0			
						D	100	2	0			
						CL	100	5	0			
						CL	100	5	0			
						D	100	7	0			
						D	100	2	0			
						CL	100	8	0			
						CL	100	4	0			
						D	100	4	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
82	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>割れ目の挟在物の有無、マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除</li> </ul>
83	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
84	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。</li> <li>粘土脈の幅については、連続性に乏しく、ばらつきがあることから削除。</li> </ul>
85	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>63.60～63.70mで角礫状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>64.17～64.52mの一部割れ目沿いに砂状化するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> <li>割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

尺貫	深度	層位	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	地質	細区分		基盤岩コア観察カード 記事・硬質性状・詳細スケッチ等		
																					硬さ	形状			
64.52	66.39																						86	記事内容	
65.19	65.34																							87	記事内容
65.59	65.61																								記事内容
66.09																									記事内容

記事内容
86 64.52~66.39m: CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴なわない。
87 65.19m 38° 割れ目ぞい厚さ10m/mで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。 65.34m 35° 割れ目ぞい厚さ25m/mの石英質部で硬質淡緑灰色緑泥石化、黒褐色マンガン化するが劣化は伴なわない。 65.59m 35° 割れ目ぞい厚さ20m/mが砂状化~φ5m/m細片化。 65.61m 35° 割れ目を境として以深は堅硬化する。 66.09m 55° 割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	円	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
		60		花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0					
					灰褐色	CL	100	5	0					
					灰褐色	CL	100	5	0					
					灰褐色	CL	100	3	0					
					灰褐色	CL	100	5	0					
					灰褐色	CL	100	7	0					
					灰褐色	CL	100	4	0					
					灰褐色	CL	100	7	0					
					灰褐色	CL	100	6	0					
					灰褐色	D	100	2	0					
					灰褐色	D	100	4	0					
					灰褐色	D	100	2	0					
					灰褐色	D	100	2	0					
					灰褐色	D	100	3	0					
					灰褐色	D	100	5	0					
					灰褐色	D	100	7	0					
					灰褐色	D	100	2	0					
					灰褐色	D	100	8	0					
					灰褐色	D	100	4	0					
					灰褐色	D	100	4	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
86, 87	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>マンガン、割れ目沿いの変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

深度 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	層位 (m)	基盤岩コア観察カード		
																					記事・破砕性状・顕微鏡スケッチ等	記事・破砕性状・顕微鏡スケッチ等	
66.37	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.37~66.40m	88
66.39	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.40	66.39~68.06:CL	89
67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12	67.12m	90
68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06	68.06~68.93m:D	91
68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40	68.40~68.60m	92
68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69	68.69m	92
68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93	68.93~70.10m:CL	93
69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70m	94

記事内容
88 66.37~66.40m 割れ目ぞい厚さ30~40m/淡緑灰色の緑泥石化。砂~粘土化部など劣化は伴わない。
89 66.39~68.06:CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。 密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。
90 67.12m 55° 割れ目ぞい厚5m/mで白色シルト状部をはさむ。 割れ目面は褐色化する。 67.30~67.70m 60~90° の高角度割れ目に囲まれてφ10m/m前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2~3m/m砂状化する。
91 68.06~68.93m:D 強風化で砂状化が拡大。φ10~20m/m硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。
92 68.40~68.60mは硬さ「D」の岩片からなる。 68.69m 30° 割れ目ぞい厚さ15m/mが硬質な淡緑灰色を呈する。 緑泥石化物、上端側に石英も伴う。
93 68.93~70.10m:CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂をはさむことが多い。一部では厚さ10m/m程度まで砂状化が拡大している。厚さ1m/m程度の軟質白色粘土脈も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。
94 69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉱染を受けている。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	U	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	区	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					CL	100	7	0						●68.80~68.98m ・密着部である。 ・歪平層シンスである。 ・灰白色の輝石じり粘土状~にぶい黄褐色の輝石粘土状~褐色の粘土状じり輝石を呈する。 ・灰白色輝石じり粘土・累計厚15mm ・走向・傾斜はN11°E54°である。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。 ・●69.00~69.75m ・密着部である。 ・右ずれ正断層シンスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい褐色の砂泥じり輝石を呈する。 ・黄褐色粘土 1mm ・走向・傾斜はN37°E48°である。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37°である。 ・●69.00~69.23m ・粘質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 ・●69.23~69.30m ・粘質を呈し、白色粘土脈を伴う。 ・粘質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 ●69.30~69.33m ・粘質を呈する。 ●70.10~71.72m ・若しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。
					CL	100	4	0						
					CL	100	7	0						
					CL	100	9	0						
					D	100	6	0						
					CL	100	4	0						
					D	100	2	0						
					CL	100	2	0						
					D	100	3	0						
					D	100	5	0						
					CL	100	5	0						
					D	100	7	0						
					D	100	2	0						
					CL	100	8	0						
					CL	100	4	0						
					D	100	4	0						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
88	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
89	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目沿いに砂状化するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
90	・67.12mにシルト状部を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・67.30~67.70mで岩片状を呈し、一部で砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
91	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・風化の程度や硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
92	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・色調や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
93	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
94	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

標尺 70 (m)	深度 (m)	境界線位置	地質	地層	岩級区分				備考
					軟弱	中等	硬	超硬	
	70.10								
	71.00								
	71.30								
	72.00								
	72.12								

記事内容
<p>70.10～71.72m: D 風化と変質で著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。 70.17～70.20m 25° で波打ってマンガンが脈状に分布黒色呈する。下盤側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20～71.30mは粘土化ないし砂状化部主体厚1m/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。 71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。部分的にφ1～2m/m石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。</p>
<p>71.72～72.76m: CL φ10～20m/m 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化～砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12～72.17m 間の30° 割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。</p>

標尺	高度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長D (cm)	R	Q	最大コア長D (cm)	記事
70			明徳灰	CL	100	4	0				● 59.69～59.75m - 破砕部である。 - 互ずれ正断層センスである。 - 黄褐色の粘土状～にぶい褐色の砂泥じり破伏を呈する。 - 黄褐色粘土 1mm - 走向・傾斜は47° E30° Wである。 - 傾斜は52° である。 - 上盤境界の傾斜は52° 下盤境界の傾斜は37° である。 - 変質であるが、密着度の低い割れ目が多い - 一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82～62.93m - 砂層状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52～66.39m - 変質であるが、割れ目が多い。 - 一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06～68.93m - 砂層状を呈する。
			明徳灰	D	100	2	0				● 70.10～71.72m - 著しく軟質化している。 - 粘土～砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。
			明徳灰	CL	100	2	0				● 72.05～72.38m - 著しく軟質化している。 - 一部、細砂層状を呈する。
			明徳灰	D	100	3	0				● 75.59～76.88m - 破砕部である。 - 互ずれセンスである。 - 明黄褐色の粘土状～泥白～にぶい褐色の硬質粘土～粘土泥じり破伏を呈する。 - 明黄褐色粘土・異計厚1mm - 走向・傾斜は44° E30° Wである。 - 傾斜は47° である。 - 上盤境界の傾斜は47° 下盤境界の傾斜は37° である。 79.15～85.03m - 粘土化が進み、著しく軟質化している。 - 原岩組織と割れ目の一部は残っている。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
95	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の見直し(軟化する→軟質化している)</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・岩組織と割れ目の残留の程度、岩片量については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・マンガン、変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・粘土脈の幅については、連続性に乏しく、ばらつきがあるため削除。</li> </ul>
96	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・一部割れ目沿いに粘土化及び砂状化がみられるが、連続性に乏しいことから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号	地質 心	細区分				割れ目 形状	割れ目 径	割れ目 密度	RQD	最大 コア長	岩 級	岩 質	備考
				割れ目 形状	割れ目 径	割れ目 密度	割れ目 径								
72.81															
73.00															
73.18															
73.38															
73.58															
74.04															
74.29															
74.72															

記事内容
72.65～73.38m: D 72.93～73.11mは強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。
73.18～73.19m 20° 割れ目ぞいに厚さ10～15m/mでマンガンが脈状に分布。
73.38～76.23 :CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目が10m/m前後で密に分布する。
73.38～73.58m 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1～3m/m灰白色粘土脈をはさむ。 74.04m 25° 割れ目ぞい約20m/m軟化進む。 74.29～74.48m 20～30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。 また細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72～74.84m 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。

標尺	高度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(%)	R	Q	D	最大コア長(%)	記事
70					CL	100	4	0				● 59.69～59.75m - 凝結部である。 - 右ずれ正断層センスである。 - 黄褐色の粘土状～にぶい褐色の砂泥じり礫状を呈する。 - 黄褐色粘土 1mm - 走向・傾斜は37° E48° である。 - 傾斜は52° である。 - 上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37° である。 60.00～62.23m - 硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い - 一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82～62.93m - 砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52～66.39m - 硬質であるが、割れ目が多い。 - 一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06～68.93m - 砂礫状を呈する。 70.10～71.72m - 著しく軟質化している。 - 粘土～砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65～73.38m - 著しく軟質化している。 - 一部、細砂礫状を呈する。 ● 76.59～76.89m - 凝結部である。 - 左ずれセンスである。 - 明黄褐色の粘土状～灰白～にぶい褐色の硬質粘土～粘土質じり礫状を呈する。 - 明黄褐色粘土・粟計厚1mm - 走向・傾斜は44° E30° である。 - 傾斜は47° である。 - 上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37° である。 79.15～85.03m - 粘土化が進み、著しく軟質化している。 - 原岩組織と割れ目の一部は残っている。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
97	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、軟質化していると記載。</li> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>
98	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
99	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
100	<ul style="list-style-type: none"> <li>73.38～73.58mで割れ目沿いに粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>変色、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	境界 位置 (m)	地質 記号	割れ目 形状	割れ目 の深さ (mm)	割れ目 の長さ (mm)	割れ目 の角度 (°)	割れ目 の方向	RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	基礎岩コア観察カード	
											記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
75.05											101	75.05~75.56m 割れ目の一部に幅1~2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。
75.46											102	75.46m 0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。 75.80~75.87m コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。 76.11~76.23m 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。 76.23~76.59m:D 76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。
76.11											103	

記事内容
75.05~75.56m 割れ目の一部に幅1~2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。
75.46m 0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。 75.80~75.87m コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。
76.11~76.23m 10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。 76.23~76.59m:D 76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。

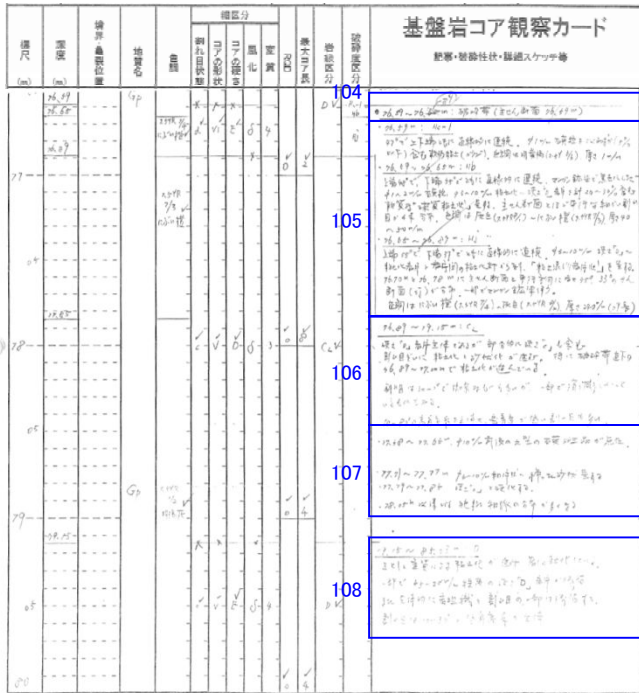
標尺 深さ (m)	境界 位置 (m)	地質 記号	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事
											R	Q	D	D	
70			+		明礫灰	CL'	100	4	0						<ul style="list-style-type: none"> <li>●59.09~59.75m</li> <li>-破砕部である。</li> <li>-五ずれ土層センサである。</li> <li>-黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。</li> <li>-黄褐色粘土:1mm</li> <li>-走向・傾斜はN37° E48W° である。</li> <li>-傾斜は2° である。</li> <li>-上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37° である。</li> <li>-69.00~62.23m</li> <li>-硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。</li> <li>-一部割れ目沿いに、砂状化している。</li> <li>-62.82~62.93m</li> <li>-砂礫状を呈し、白色粘土層を伴う。</li> <li>-64.52~66.39m</li> <li>-硬質であるが、割れ目が多い。</li> <li>-一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。</li> <li>-68.06~68.93m</li> <li>-砂礫状を呈する。</li> <li>-70.10~71.72m</li> <li>-著しく軟質化している。</li> <li>-粘土~砂状化が進み、白色粘土層を伴う。</li> <li>-72.65~73.38m</li> <li>-著しく軟質化している。</li> <li>-一部、細砂礫状を呈する。</li> <li>●76.59~76.93m</li> <li>-破砕部である。</li> <li>-五ずれセンサである。</li> <li>-明礫灰色の粘土状~灰白~にぶい礫色の硬質粘土~粘土混じり礫状を呈する。</li> <li>-明礫灰色粘土、実計厚1mm</li> <li>-走向・傾斜はN44° E30° Wである。</li> <li>-傾斜は47° である。</li> <li>-上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37° である。</li> <li>-79.19~80.03m</li> <li>-粘土化が進み、著しく軟質化している。</li> <li>-原岩組織と割れ目の一部は残っている。</li> </ul>
						D'	100	2	0						
						CL'	100	2	0						
						D'	100	3	0						
						CL'	100	5	0						
						D'	100	5	0						
						D'	100	7	0						
						CL'	100	8	0						
						明礫灰	100	4	0						
						D'	100	4	0						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
101	・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
102	<ul style="list-style-type: none"> <li>・75.46mで珪質部が割れ目を切ったとの記載については、周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。</li> <li>・75.80~75.87mで礫状化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> <li>・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・76.11~76.23mで粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
103	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・76.41m以浅で一部粘土化しているが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目の残留程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
<p>104 ●76.59～76.89m 破砕帯(主せん断面76.59m)</p> <p>76.59m: Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明黄褐(2.5Y6/6)、厚さ1m/m。 76.59～76.65m: Hb 上端48°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)～にぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～50m/m。 76.65～76.89m: Hj 上端55°で下端37°とともに直線的に連続。φ3～10m/m硬さ「D」～粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり、「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33°のせん断面(sj)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)～灰白(7.5YR8/2)、厚さ240m/m(コア長)。 76.89～79.15m: CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89～77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70～80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。 77.58～77.65m φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。 77.71～77.77m φ5～10m/m細片状～締った砂状呈する。 77.79～77.85 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15～85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟化している。 一部でφ5～20m/m程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10～30°と低角度系が主体。</p>

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
70				明褐色	CL	100	4	0				●59.69～59.75m ・破砕帯である。 ・必ずれせん断面センスである。 ・黄褐色の粘土状～にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土: 1mm ・走向・傾斜はN37° E48W°である。 ・傾斜は27°である。 ・上層境界の傾斜は52°。下層境界の傾斜は37°である。 69.00～62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82～62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52～66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06～68.93m ・砂礫状を呈する。 70.10～71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土～砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65～73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。
				明褐色	D	100	2	0				
				明褐色	CL	100	3	0				
				明褐色	D	100	2	0				
				明褐色	CL	100	5	0				
				明褐色	D	100	5	0				
				明褐色	CL	100	7	0				
				明褐色	D	100	4	0				
				明褐色	CL	100	8	0				
				明褐色	D	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
104, 105	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混り岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
106	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>割れ目沿いに砂状化と粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
107	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>77.71～77.77mで細片状～締まった砂状を呈するが、掘割時の機械割れと判断し削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。</li> </ul>
108	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の見直し(軟化→軟質化)</li> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 D.D. (m)	深度 (m)	境界 高さ位置	地層 の 名称	細区分				硬さ の 区分	硬さ の 区分	観察 区分	記事 番号	記事 内容
				割れ目 の有無	子 実 の 有無	変 色 の有無	変 色 の 程度					
0.5										109	80.14~80.31m 幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。 80.76~81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	
0.7										110	81.70~82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	
0.9										111	81.90m~84.40m φ1~2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。 83.30~83.74m 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30~83.50m 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。 84.06~84.54m 10~20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	
1.1										112	84.54~84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。	

記事内容
80.14~80.31m 幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。
80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。
80.76~81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。
81.70~82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
81.90m~84.40m φ1~2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。
83.30~83.74m 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30~83.50m 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。
84.06~84.54m 10~20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。
84.54~84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事	
																		2
					明 徳 灰		100	5	0									
					厚 層 灰	D'	100	4	0									
					厚 層 灰 薄		100	3	0									
					に よ り 薄	DL	100	3	0									
					掃 込		100	2	0									
					に よ り 薄		100	2	0									
					に よ り 薄	D'	100	3	0									
							100	3	0									

112 84.54~84.71m  
・砂状化が進み、軟質粘土も伴う。  
85.61~93.25m  
・著しく軟質化している。  
87.18~91.35m  
・砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
109	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・80.36m以深で部分的に粘土化しているが、粘土の連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	・風化による変色については、補足的なものであるため削除。
111	・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・83.30~83.50mの一部で砂状~粘土状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
112	・岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	厚さ (m)	崩壊 位置	地層名	色調	割れ目		RQD	最大 コア長 (cm)	岩級区分	記事区分	記事内容
					開裂 長さ	開裂 密度					
93.25										113	85.03~85.61m:CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。
93.25										114	85.36~85.60m間は割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 85.28~85.32m間は緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱を伴う。
93.25										115	85.61~91.35m:D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり全体として軟化が著しい。
93.25										116	86.50~86.78m 40~50° 割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。
93.25										117	87.18~91.35m 強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。  88.18~89.00mは残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。  89.00~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状~粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。

記事内容
85.03~85.61m:CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。
85.36~85.60m間は割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 85.28~85.32m間は緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱を伴う。
85.61~91.35m:D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり全体として軟化が著しい。
86.50~86.78m 40~50° 割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。
87.18~91.35m 強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。
88.18~89.00mは残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。
89.00~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状~粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
						100	5	0			
						100	4	0			
						100	3	0			
						100	3	0			
						100	3	0			
						100	3	0			
						100	2	0			
						100	2	0			
						100	3	0			
						100	3	0			

84.54~84.71m  
・砂状化が進み、軟質粘土多量。

85.61~93.25m  
・著しく軟質化している。

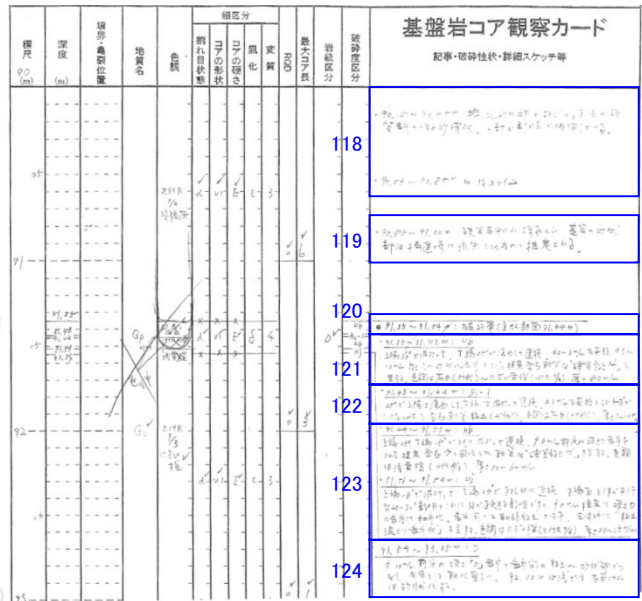
87.18~91.35m  
・砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
113	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが、系統的でなく、直線性や連続性が乏しいことから削除。 ・色調、鉱物の晶出、コアの硬さについては、補足的なものであるため削除。
114	・“コアの硬さ”欄に基づき、下端深度を93.25m、著しく軟質化していると記載。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
115	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
116	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・基質部はスライムであるとの記載については、補足的なものであるため削除。
117	・岩片の量や割れ目の残留程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・89.00~90.14mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
118 90.15～90.55m 締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。 90.55～90.85mはスライム。
119 90.85～91.00m 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。
120 ●91.35～91.54m 破砕帯(主せん断面91.44m)
121 91.35～91.43m:Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2～3m/石英粒、φ3～10m/m粘土～砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)～にぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ80m/m
122 91.43～91.44m:Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわず(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)、厚さ7～10m/m
123 91.44～91.51m:Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5m/m前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は浅黄橙(10YR8/3)、厚さ30～60m/m
123 91.51～91.54m:Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/m程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)、厚さ20～25m/m
124 91.54～93.05m:D φ10m/m前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア率(%)	記事
90					D'	100	3	0				●91.35～91.54m 破砕部である。カタクレーサイトからなる。 灰白色の粘土状～灰白～にぶい黄橙～浅黄橙色の礫質粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。 灰白色粘土：累計厚10mm 走向・傾斜は約45°、20°、5°である。 傾斜は25°である。 上層境界の傾斜は36°、下層境界の傾斜は20°である。 91.54～92.00m 石英以外は砂状化している。 93.06～93.05m 粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.00～93.05m 破砕部である。カタクレーサイトからなる。
					D'	100	6	0				
					D'	100	3	0				
					D'	100	1	0				
					D'	100	3	0				
					D'	100	4	0				
					D'	100	2	0				
					D'	100	2	0				
					D'	100	6	0				
					D'	100	7	0				
100					CL'	100	2	0				
					CL'	100	6	0				
					CL'	100	7	0				
					CL'	100	2	0				
					CL'	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
118	<ul style="list-style-type: none"> <li>締まった砂状及び砂礫状を呈するが、記事No.116でまとめ書きしているため削除。</li> <li>割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。</li> </ul>
119	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。</li> </ul>
120～123	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。</li> <li>表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。</li> <li>境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
124	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード										
観察・記録・状況・経過スケッチ等										
孔深 (m)	取芯深度 (m)	取芯位置 (緯度・経度)	取芯方法	取芯機	取芯速度 (m/min)	取芯時間 (min)	取芯回数	取芯位置 (緯度・経度)	取芯位置 (高さ)	取芯位置 (方位)
93.05	93.66								125	
93.66	93.86								126	
93.86	99.50								127	
95.50	95.71								128	

記事内容
93.05～93.66m: CL 70～80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚さ1～3m/m程度の砂状部～粘土化部をはさむ。
93.66～93.86m: D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。
93.86～99.50m: CL 50～70° とこれに直交する40～50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25m～94.31mは10～20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10～20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染受ける。
95.50～95.71mは割れ目から分離、φ10m/m前後に小岩片している。

標尺 (m)	高度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)				記事
									R	Q	D	最大コア長 (cm)	
90		[岩種区分記号]	花崗斑岩	にふい橙	D'	100	3	0	●91.35～91.54m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。				
						100	6	0					
						100	3	0					
						100	1	0					
						100	3	0					
						100	4	0					
						100	2	0					
						100	2	0					
						100	6	0					
						100	7	0					
90		[岩種区分記号]	花崗斑岩	にふい橙	CL'	100	2	0	91.54～92.00m ・石基以外は砂状化している。				
						100	2	0					
100		[岩種区分記号]	花崗斑岩	にふい橙	CL'	100	2	0	93.66～93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。				
						100	5	0					
100		[岩種区分記号]	花崗斑岩	にふい橙	CL'	100	5	0	●99.50～99.68m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。				
						100	5	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
125	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・一部割れ目に粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。</li> </ul>
126	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
127, 128	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・94.25～94.31mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	割れ目	割れ目			備考													
					傾斜	間隔	長さ														
96	26.72	粘土	灰白色	60°	1m/m	灰白色軟質粘土をはさむ。	上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。	129													
									96.52	97.60	30~40°と60~70°	割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)	130								
														97.07	幅2~3m/m, 15°	石英脈。劣化は伴わず密着。	131				
																		97.58	97.69	マンガン鉱染が進み黒褐色化。	132

記事内容
129 95.96m 60° 割れ目に厚さ1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。 95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
130 96.52~97.60m 30~40°と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)
131 97.07m 幅2~3m/m, 15° 石英脈。劣化は伴わず密着。
132 97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133 97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状からφ2~3m/m斑点状で分布する。

標尺 m	深度 m	柱状 m	岩種 区分	色	割れ目	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	最大コア長 R Q D (cm)	記事																																																																																																	
												100 3 0	100 4 0	100 2 0	100 6 0	100 7 0	100 2 0	100 5 0	100 8 0	100 12 12	100 8 0	100 12 23	100 18 31	100 10 10																																																																																				
100	96	26.72	粘土	灰白色	60°	1m/m	100	3	0	100	3	0																																																																																																
													花崗斑岩	灰褐色	30~40°	2	0	100	4	0	100	2	0	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																																																																																				
																									花崗斑岩	灰褐色	15°	2	0	100	5	0	100	8	0	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																																																																								
																																					花崗斑岩	灰褐色	30~40°	2	0	100	12	12	100	8	0	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																																																												
																																																	花崗斑岩	灰褐色	60°	2	0	100	12	23	100	18	31	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																																																
																																																													花崗斑岩	灰褐色	30~40°	2	0	100	10	10	100	10	10	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																																				
																																																																									花崗斑岩	灰褐色	60°	2	0	100	10	10	100	10	10	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m																								
																																																																																					花崗斑岩	灰褐色	60°	2	0	100	10	10	100	10	10	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m												
																																																																																																	花崗斑岩	灰褐色	60°	2	0	100	10	10	100	10	10	91.54~92.00m 93.06~93.08m 99.50~99.68m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
130	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・96.52~97.60mで割れ目が切られるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
131	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
132	・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード	
観察・補綴柱状・補綴スケッチ等	
134	98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。 98.19~98.92m 硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。
135	98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
136	●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)
137	99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
138	色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
139	99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10m/m
140	99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

記事内容	
134	98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。 98.19~98.92m 硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。
135	98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
136	●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)
137	99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
138	色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
139	99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10m/m
140	99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)			(m)	
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	3	0				・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄緑~淡黄褐色の硬質粘土状~にぶい褐色の粘土混じり層状を呈している。 ・灰白色粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は64° 820° Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 93.06~93.08m ・粘土化及び砂状化が著しい。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	4	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	6	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	7	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	5	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	8	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CM	100	12	12			136~140	・灰白色の砂混じり粘土状~明黄緑~褐色の粘土・砂混じり層状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は15° 890° Eである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。 102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~層柱状を呈する。
				花崗斑岩	灰褐色	CM	100	8	0				
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	12	23				
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	18	31				
				花崗斑岩	灰褐色	CM	100	10	10				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
134	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
135	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。 ・98.92~99.50mの風化・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
136~140	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状及び砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ・φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード										
地層・地質性状・基礎土ケラ等										
層名	層厚	層位	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
10										
9										
8										
7										
6										
5										
4										
3										
2										
1										

記事内容
<p>99.68～101.78m: CL 上下端側は硬さ「D」、中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化、変質がやゝ進み硬さ「D」と軟化。 100.00～101.00m 密着度が低い割れ目～ゆ着割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。 101.45～101.78m 幅1～2m/m白色～黄色粘土が脈状に多く分布。</p>
<p>101.78～104.28m: CM 上端側の101.78～102.56mまでは硬さ「C」、102.56m以深は硬さ「B」で堅硬である。 割れ目挟在物の分布は少ないが上端側硬さ「C」部分では、割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。 102.56m以深の硬さ「B」の短柱状～柱状コアには幅1～2m/mの白色筋状の「ゆ着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。 割れ目には殆んど挟在物は認められないが、一部で厚さ2～3m/mで砂状～細片状化部をはさむものもある。</p>

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)			(cm)	
		100		花崗斑岩	緑灰色	CL	100	2	0				99.68～99.80m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●99.90～99.80m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
		100		花崗斑岩	緑灰色	CL	100	5	0				
		100		花崗斑岩	緑灰色	CL	100	8	0				
		100		花崗斑岩	緑灰色	CL	100	12	12				・灰白色の砂混じり粘土状～明黄緑～褐色の粘土・砂混じり砂状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は15°・30°である。 ・傾斜は30°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は37°である。
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	8	0				
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	12	23				
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	18	31				102.00～104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～細粒状を呈する。
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	10	10				
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	7	0				104.28～105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	10	10				105.88～119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
		100		花崗斑岩	緑灰色	CM	100	15	25				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
141	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。</li> </ul>
142	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上端深度101.78m→102.00m<sup>※1</sup></li> <li>・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片～短柱状と記載。</li> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目ぞいに砂状～細片状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

穴深 (m)	取芯 (m)	取芯位置	取芯方法	岩盤分				取芯機	取芯速度	取芯時間	取芯量	岩盤観察	
				硬さ	形状	色調	割れ目					硬さ	形状
103.24												143	103.24m, 203.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94												143	103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28												144	104.28~105.88m: CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
103.24m, 203.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28~105.88m: CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

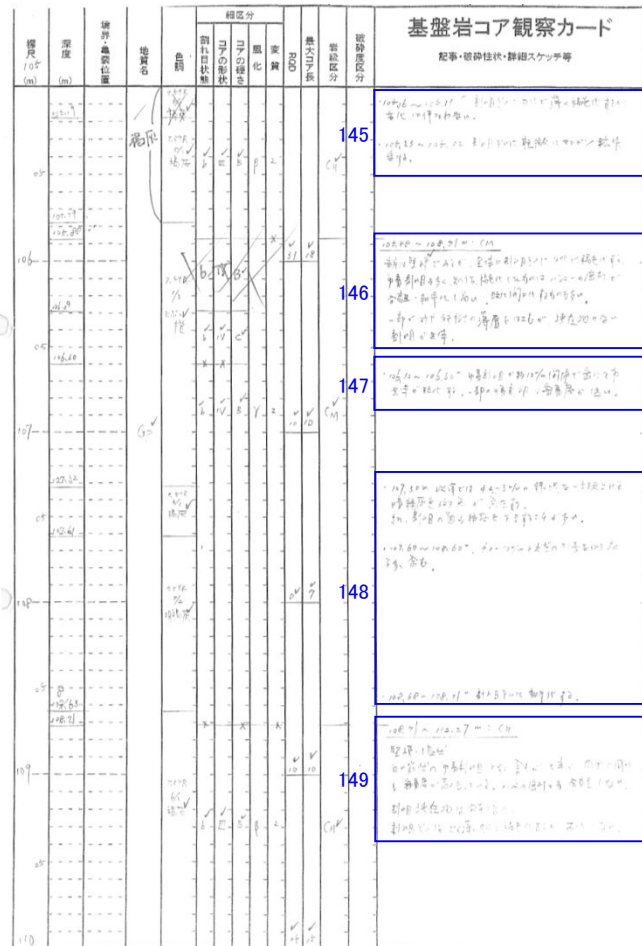
## 申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)			記事
												R	Q	D	
				花崗斑岩		CL	100	2	0			93.06~93.80m		・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.50~99.80m ・破砕部である。カタクレサイトからなる	
				花崗斑岩		CL	100	5	0					・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐色~褐色の粘土・砂混じり砂状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は15°/90°である。 ・傾斜は30°である。	
				花崗斑岩		CM	100	8	0	*				・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。 102.00~104.20m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。	
				花崗斑岩		CH	100	12	12	*				104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、塊状を呈する。	
				花崗斑岩		CH	100	8	0	*				105.88~110.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。	
				花崗斑岩		CM	100	12	23	*					
				花崗斑岩		CM	100	18	31	*					
				花崗斑岩		CM	100	10	10	*					
				花崗斑岩		CM	100	7	0	*					
				花崗斑岩		CM	100	10	10	*					
				花崗斑岩		CM	100	15	25	*					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	<ul style="list-style-type: none"> <li>・103.24mと103.48mで割れ目を切りとの記載があり、一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
144	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・“コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
105.16~105.19m 割れ目ぞいに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。 105.33~105.52 割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。
105.88~108.71m: CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目ぞいに風化で褐色化する。 ゆ着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。 一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが、挟在物のない割れ目が主体。
106.32~106.60m ゆ着割れ目が約10m/m間隔で密に分布全体が軟化する。 一部のゆ着割れ目は密着度が低い。
107.30m以深ではφ2~3m/mの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。 107.60~108.60m φ5~10m/mと大型の砂長石斑晶を多く含む。
108.68~108.71m 割れ目ぞいに細片化する。 108.71~112.27m: CH 堅硬・塊状 白い筋状のゆ着割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいのごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
				褐炭		CH'	100	12	23	*			・傾斜は30°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は37°である。 ・102.00~104.28m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・104.28~105.88m 硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・105.88~119.00m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・105.71~112.27m 割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・112.27~113.27m 硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
						CH'	100	18	31	*			
						CH'	100	10	10	*			
						CM'	100	7	0	*			
						CH'	100	10	10	*			
						CH'	100	15	25	*			
						CH'	100	15	25	*			
						CH'	100	12	12	*			
						CM'	100	10	20	*			
						CH'	100	20	72	*			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
145	・変色、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
146	・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を119.00m、岩片~短柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・割れ目沿いの変色、割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
147	・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
148	・鉱物の晶出、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・108.68~108.71mで細片化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
149	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・“コアの形状”欄に基づき、柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、割れ目沿いの色調については、補足的なものであるため削除。





# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

孔番号	孔深	孔径	取芯機	取芯速度	取芯時間	取芯位置	観察項目		観察結果	備考	記事番号	記事内容
							割れ目	変色				
110	113.27						割れ目	CH	154	113.27~114.68m: CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。		
	114.40						割れ目	CH	155	114.40m 80° ゆ着割れ目ぞいにφ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。		
	114.68						割れ目	CM	156	114.68~115.12m: CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m間は上端厚さ5m/m、下端30m/mで砂状化~片状化する。		

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
113.27~114.68m: CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同傾向で密着度が高い。
114.40m 80° ゆ着割れ目ぞいにφ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。
114.68~115.12m: CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m間は上端厚さ5m/m、下端30m/mで砂状化~片状化する。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
154	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
155	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目ぞいの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
156	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・一部割れ目ぞいに砂状化や片状化がみられるが、記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。</li> </ul>

コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高 (m)	深度 (m)	境界 高さ (m)	境界 高さ (m)	境界 高さ (m)	細区分				備考
					割れ目 の 性状	割れ目 の 性状	割れ目 の 性状	割れ目 の 性状	
115.12	115.12								
116.80	116.80								157
117.32	117.32								158
117.39	117.39								159

記事内容
115.12~116.8m: CH 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.12m 80° 割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がはさまれる。上盤側厚さ約30m/mは片状化している。 115.90~116.10m間ではφ5m/m前後の橙色のかり長石が多く分布する。 116.33m で70~80° で湾曲する割れ目と40° 割れ目が交差。 後者は前者で切られる(変位量10m/m右ズレ) 両割れ目の一部に厚1m/m、交差部で5m/mの緑泥石砂状~シルト(粘土)をはさんでいる。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるがゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。
117.32~117.39m: CL 75° 割れ目ぞいに厚さ20~25m/mが風化で軟化する。
117.39~118.47m: CH 堅硬、一部で割れ目多いがコア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。 117.65~118.40m 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。

標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R D Q D R Q D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
110					CH	100	15	25			105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・割れ目には、挟在物は見られない。 112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・一部割れ目に、砂~シルト状緑泥石が見られる。 113.27~117.32m ・短柱~柱状を呈する。 ・一部割れ目ぞいに、砂~片状化している。
					CM	100	10	20			117.32~117.39m ・割れ目ぞいに、軟質化している。
					CH	100	20	72			117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られない。
					CH	100	12	34			119.14~119.30m ・暗緑灰色の棒状を呈する。 ●119.11~119.25m(D-破砕帯) ・破砕帯である。 ・上盤層中心である。 ・暗灰色の粘土状~にぶい暗~暗緑灰色の粘土状にり硬状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計厚10mm ・走向・傾斜はN20° E37° #である。 ・傾斜は50° である50。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は41° である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
157	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の変色、割れ目の密着状態、鉱物の色調、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・115.12mに粘土を挟在するが、下位側の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>・116.33mに砂~粘土を挟在し、割れ目が切られるとの記載があるが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> <li>・一部割れ目ぞいに砂状化や片状化がみられるが、記事No.Bでまとめ書きしていることから削除。</li> </ul>
158	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・軟質化している区間の幅については、ばらつきがあるため削除。</li> </ul>
159	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を119.00m、短柱~柱状と記載。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

基礎岩コア観察カード									
地質・地層特性・基礎調査等									
標尺	深さ	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率	最大コア長	R	Q
160									
161									
162									
163									
164									
165									

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容	
160	119.00~119.11m:CL 風化と変質が進み全体も軟化する。
161	●119.11~119.25m 破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯
162	119.11~119.16m:Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10m/m角礫状岩片からなり、岩片間は幅1m/m以下で白色、1~3m/mで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)、厚さ30m/m
163	119.16~119.18m:Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1m/m石英をわずかに含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10m/m
164	119.18~119.25m:Hj 117~120m コアノ箱なし。
165	上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5m/mに細片化。岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40m/m

## 申請書用柱状図

標尺	深さ	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
						100	21	36				117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、該在物は見られない。
						100	3	0				119.14~119.30m ・暗緑灰色の塊状を呈する。
										161~165		●119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。 ・主断面で呈する。 ・緑灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘土混じり塊状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計厚10mm ・走向・傾斜は60° E57° Nである。 ・傾斜は60°である50°。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
160	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> </ul>
161~165	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破砕帯名を記載。</li> <li>・薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。</li> <li>・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状)</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・「傾斜は60°である50。上盤境界の傾斜は°」は、「傾斜は60°である。上盤境界の傾斜は50°」の誤り。<sup>※2</sup></li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「色調」欄に基づき、暗緑灰色と記載。</li> <li>・「コアの形状」欄及び、区間内に破砕帯が分布することから、礫状とまとめ書き。</li> </ul>

# H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

深さ (m)	層名	地質名	地質記号	地質説明	観察項目		備考
					割れ目	硬さ	
119.25					166		
120.02					167		
121.60					168		
122.36					169		
123.63					170		

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
119.25~120.10m:CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09~120.10m 60°、厚さ10~15m/m緑泥石脈で軟化している。
120.10~125.90m:CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほとんど未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。 121.60m 仰着割れ目が開口割れ目化している。
122.36m 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
122.61m 60° 割れ目厚さ2m/mの褐色砂はさむ。
123.63~123.67m 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴なわない。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
166	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
167	・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を129.84m、短柱〜柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
168	・割れ目の密着状態・開口状況、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
169	・砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
D	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩及びその深度区間を記載。
170	・割れ目沿いに片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

掘削深度 (m)	掘削径 (mm)	掘削機	方位	傾斜	地質		RQD (%)	最大コア長 (cm)	岩種	色	観察項目		備考
					岩種	色					割れ目	付着	
125.00	φ100	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	171
125.90	φ100	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	172
127.15	φ100	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	173

記事内容
171 125.00m以深ではゆ着割れ目は殆んど分布しない。
172 125.90~128.05m: CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物にはさまず、ほど未風化で新鮮。 ほど全区間に亘り60~90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。
173 127.15~127.58m 80~90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。 全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
171	・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
172	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
173	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。

# H27-B-3

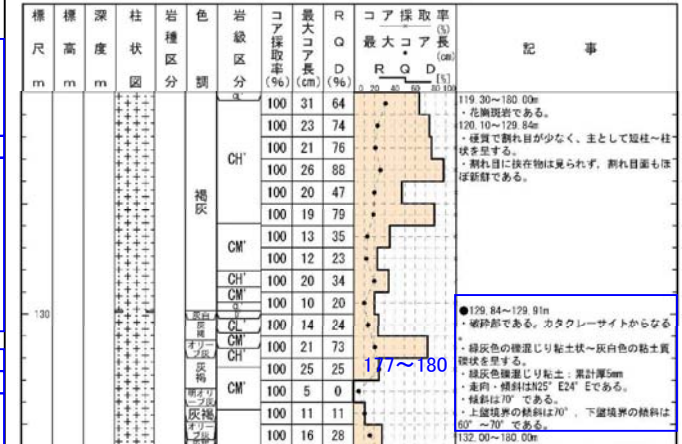
## コア観察カード (H27年8月)

基礎岩コア観察カード										
観察・記録・検出・記録スケッチ等										
孔番号	深度	層名	地層区分	色	状態	備考	観察者	観察日	観察時間	備考
174	128.05	CH	CH	緑灰	堅硬	割れ目	H			
	128.05~129.00m									
	128.78m									
	128.78~129.47m									
	129.47~129.84m									
	129.84~129.91m									
	129.84~129.85m									
	129.85~129.91m									
	129.91~129.91m									
	129.91~129.91m									
179	129.91~129.91m	Hc-2	Hc-2	緑灰	70°	割れ目	H			
	129.91~129.91m									
180	129.91~129.91m	Hj	Hj	緑灰	70°	割れ目	H			
	129.91~129.91m									

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
174 128.05~128.78m: CH 堅硬。 128.05~129.00mにゆ着割れ目か開口割れ目化した80~90° 割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
175 128.78m 33° 割れ目に砂, φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mではさむ。
176 128.78~129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
177 129.47~129.84m: CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
177 ●129.84~129.91m 破砕帯(主せん断面129.84m)
178 129.84~129.85m: Hc-2
179 70° で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
180 129.85~129.91: Hj 上端70° で波打って、下端60~70° で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリープ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
174	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
175	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂や岩片を挟在するが、連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
176	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
177~180	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。</li> <li>・表現の見直し(粘土質岩片状→粘土質礫状)</li> <li>・φ1~3mm石英粒、φ2~3mm岩片を10~20%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。</li> <li>・粘土の累計幅については、最大値を記載。</li> <li>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</li> <li>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。</li> <li>・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> <li>・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。</li> <li>・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	地質	観察項目		備考	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
				割れ目	色							
130	129.91						100	20	34			181
130	130.57						100	10	20			
130	131.27						100	14	24			
132	132.41						100	21	73			182
132	133.33						100	25	25			
135	135.00						100	5	0			183
135	132.41						100	11	11			
135	132.00						100	16	28			
135	131.27						100	29	58			

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
129.91~130.57m: CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。
130.57~131.27m: CM 割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。
131.27~132.41m: CH 白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。
132.41~133.33m: CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・129.91~130.57mの一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> </ul>
182	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。</li> <li>・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの形状”欄、RQDと最大コア長の傾向を踏まえ、132.00~180.00mを短柱~長柱状と記載。</li> <li>・“コアの硬さ”欄に基づき硬質と記載。</li> <li>・記事No.183等に基づき、割れ目面はほぼ新鮮で挟在物はわずかとまとめ書き。</li> </ul>
183	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>



# H27-B-3

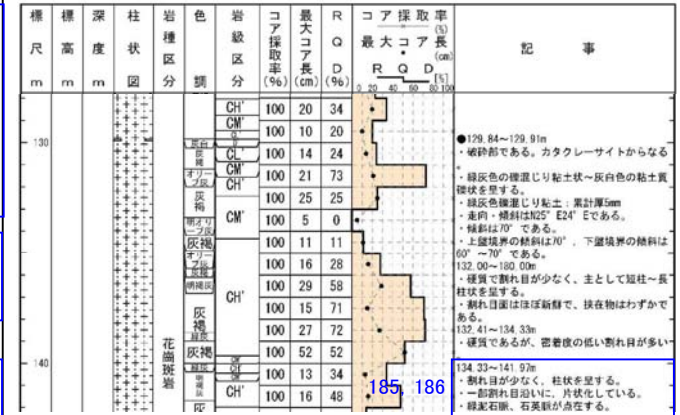
## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	岩種	色	質	割れ目		備考	記事No.	記事内容
						長さ	径			
133.00	133.60								184	133.00～133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39～133.85m φ2～3m/m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。
134.35	134.70								185	134.35m 70～80°に暗緑灰色の厚さ1～2m/m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/mのφ5～10m/m岩片をはさむ。
134.33	139.66								186	134.33～139.66m:CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリブ灰)する。
134.85	136.09								186	134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。 135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。 136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1～2m/mmの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
133.00～133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39～133.85m φ2～3m/m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。
134.35m 70～80°に暗緑灰色の厚さ1～2m/m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/mのφ5～10m/m岩片をはさむ。
134.33～139.66m:CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリブ灰)する。
134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。 136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1～2m/mmの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の密着状態、挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・134.35mに岩片を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
185, 186	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を141.97m、柱状と記載。</li> <li>・記事No.191、192に基づき、一部割れ目沿いに片状と記載。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>・135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

基礎岩コア観察カード 新野・新野建設・基礎スケッチ等											
標尺 (m)	標高 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	コア採取 率(%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	コア採取率 (%)			記事
								R	Q	D	
137.00			花崗斑岩	灰褐色	100	5	0				
137.52			花崗斑岩	灰褐色	100	11	11				187
138.35			花崗斑岩	灰褐色	100	16	28				188
138.50			花崗斑岩	灰褐色	100	29	58				188
139.02			花崗斑岩	灰褐色	100	15	71				189
139.66			花崗斑岩	灰褐色	100	27	72				190
139.96			花崗斑岩	灰褐色	100	52	52				191

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
187 137.52~137.62m 晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。
188 138.35m, 138.50m ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
189 139.02~139.21m 緑泥石化で緑灰色化する。
189 139.37m 70° 厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。
190 139.66~139.96m: CM 割れ目がやゝ多くなる。挟在物は分布しない。
191 139.96~140.39m: CH

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
188	・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出、変色については、補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
190	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
191	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。

基礎岩コア観察カード										
観察・破砕性状・粒度スケッチ等										
標高 (m)	深度 (m)	柱状図	色	岩種区分	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D
140.13	65°									
140.39	70°									
140.61										
141.40										
141.70										
141.97										
142.32										
142.70										
143.48										
143.80										
144.61										

記事内容
140.13m 65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。 140.39~140.61m: CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。 140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
141.40~142.00m φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
141.97~147.08m: CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。
142.32~142.43m 割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
142.70~142.76m 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
143.48~144.50m φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く析出。 かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。 ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。
143.80~144.00m 割れ目間隔20~70m/mで45° ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。
144.61~144.68m 40~55° のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
192	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目沿いの細片化については、記事No.185, 186でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> </ul>
193	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
194	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、短柱状と記載。</li> <li>表現の見直し(岩片化→細片状を呈する)</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
195	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
196	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
197	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
198	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。</li> <li>割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

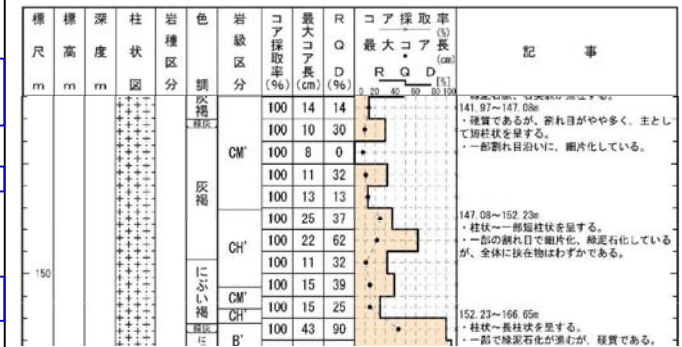
## コア観察カード (H27年8月)

基盤岩コア観察カード											
記事・岩種柱状・詳細スケッチ等											
標尺 寸法 (m)	深度 (m)	岩種 区分	色調	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	
										199	
											200
											201

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
145.37m 50° 割れ目ぞいに厚さ15m/mがφ2~10m/mに細片化するが岩片は硬質。砂や粘土ははさまない。
145.88m 70° ゆ着割れ目ぞいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。
146.56~147.08m 60~70° のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほど未風化・新鮮で挟在物は分布しない。

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
199	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目沿いに細片化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
200	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の密着状態、割れ目沿いの鉱物の晶出、変色については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
201	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

## コア観察カード (H27年8月)

### コア観察カードの仮ワープロ変換

### 申請書用柱状図

層番号	層名	層厚	中心	層区分		備考	記事
				硬軟	割れ目		
202	CH						147.08~150.59m: CH 坚硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。
203	CH						148.78m 65° 割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。
204	CH						149.20~149.36m やゝ割れ目が多いが劣化は伴わない。
205	CH						150.04~150.59m 50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。
206	CH						150.41m 緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。 150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。 151.21m 85° 割れ目の一部に厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。 151.50~151.52m 石英と暗褐色鉱物が共生して分布。 151.57~152.23m: CH 坚硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。 151.47~151.52m 緑泥石化と珪化が進み硬化している。
207	CH						

記事内容
147.08~150.59m: CH 坚硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したもの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。
148.78m 65° 割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。
149.20~149.36m やゝ割れ目が多いが劣化は伴わない。
150.04~150.59m 50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。
150.41m 緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。 150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやゝ割れ目が多くなっている。
151.21m 85° 割れ目の一部に厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。 151.50~151.52m 石英と暗褐色鉱物が共生して分布。 151.57~152.23m: CH 坚硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。 151.47~151.52m 緑泥石化と珪化が進み硬化している。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
202~207	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割れ目の発達程度について、“コアの形状”欄に基づき、柱状~一部短柱状と記載。</li> <li>・割れ目沿いの細片化についてまとめ書き。</li> <li>・割れ目沿いの緑泥石化についてまとめ書き。</li> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。</li> <li>・割れ目の密着状態・開口状況、石英の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・148.78mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>



コア観察カード  
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
記事・硬軟性状・詳細スケッチ等									
標尺	深度	採掘位置	岩種	色	割れ目性状	色調	硬軟	FOD	備考
150	152.23								211
150	156.00								212
150	156.50								213
150	157.00								214
150	158.20								215

記事内容	
211	155.25m 70~80° 割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が切られている(変位不明)。 156.77~156.80m 一部で緑泥石化しφ30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。 156.00~156.14m 白色筋状のゆ着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。
212	156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。
213	156.50~156.90m 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。
214	157.00m以深は20~40° 割れ目が主体。 157.35~157.89m わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83~157.89m 30°程度でφ2~3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20~158.30m φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。
215	158.54mと158.62mに70~75° 厚1~2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。 159.24~160.40m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
211	<ul style="list-style-type: none"> <li>155.25mで割れ目が切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>緑泥石化については、記事No.208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
212	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化、割れ目の密着状態については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> </ul>
213	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更なし</li> </ul>
214	<ul style="list-style-type: none"> <li>割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。</li> <li>緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
215	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑泥石化、割れ目の密着状態、硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>石英の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>





## コア観察カード (H27年8月)

孔番号	深度(m)	層名	地質記号	地質説明	観察項目		備考
					割れ目	鉱物	
165	162.57				221		162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙系など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。
	163.50				222		163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。
	164.00				223		164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。
	164.50				224		164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。
	164.94				225		164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙系など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。
163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。
164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。
164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。
164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。

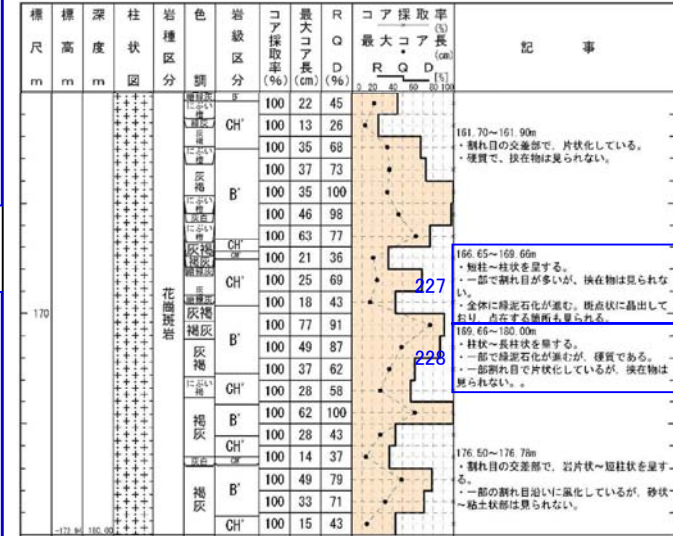
## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
221	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
222	・片状化、硬軟、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜、黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。
223	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
224	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
225	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	層位	岩種	色調	岩級区分		備考	観察区分	観察区分	備考	観察区分	備考	基盤岩コア観察カード	
					CH	B							記事・硬軟性状・顕微鏡スケッチ等	備考
														226
														227
														228

記事内容
<p>164.95～165.89m 橙色のカリ長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。 165.32m 70° 割れ目は165.32mでφ8m/mの橙色カリ長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位量2～5m/左ズレ)。本割れ目には鏡肌も認められる。 165.80～166.10m φ10～20m/mの石英が多く晶出している。 一部は地形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。 166.44～166.47m φ10m/m斑状～長20～30m/m・幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。</p>
<p>166.65～167.21m:CH 一部でやゝ割れ目が多いが、岩片は硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。 167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。 167.21～167.55m:CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は硬で挟在物は分布しない。 167.55～169.66m:CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10～20cmの柱状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2～3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。 169.19～169.41m 緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟化は伴わず堅硬。 169.50m以深、φ2～3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。</p>
<p>169.66～172.69m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。</p>



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
226	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> <li>165.32mで割れ目の一部も切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> <li>鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
227	<ul style="list-style-type: none"> <li>“コアの形状”欄に基づき、短柱～柱状と記載。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。</li> <li>色調、割れ目の密着状態、黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>
228	<ul style="list-style-type: none"> <li>孔底までの割れ目の発達程度、硬軟をまとめ書き。</li> <li>“コアの形状”欄に基づき、柱状～長柱状と記載。</li> <li>“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。</li> <li>記事No.230, No.232, No.238等に基づき、緑泥石化、割れ目沿いの片状化、挟在物の有無についてまとめ書き。</li> <li>岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

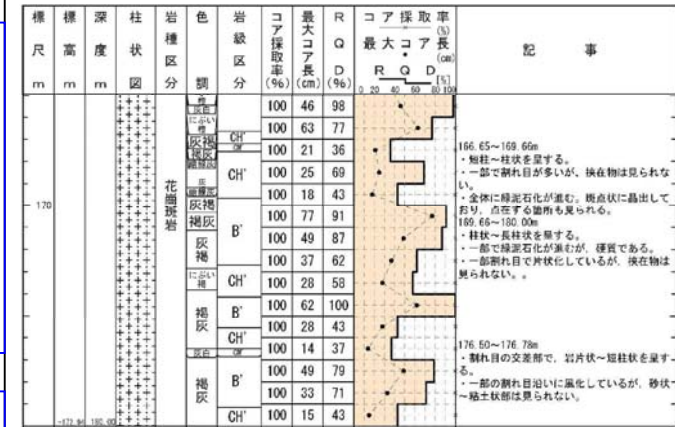
## コア観察カード (H27年8月)

## コア観察カードの仮ワープロ変換

## 申請書用柱状図

標尺 170 (m)	深度 (m)	採掘位置 (緯度経度)	地層 の 名称	層区分										記事 番号	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
															229
															230

記事内容
169.67~170.22m φ2~3m/mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。
170.20~170.65m 60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
171.00~171.08m φ10m/mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
171.85m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
172.32~172.53m φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1m/m石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
229	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑泥石化、割れ目沿いの片状化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。</li> </ul>
230	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>

# H27-B-3

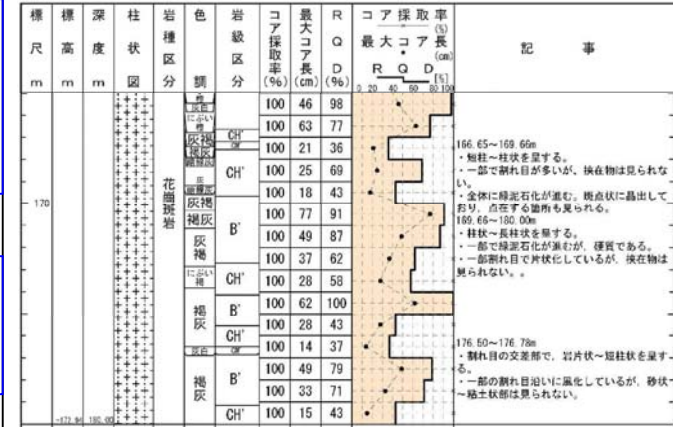
## コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	地質	観察区分		備考	岩盤コア観察カード 観察・記録仕様・経路スケッチ等
				観察区分	観察区分		
173	172.69 172.72			CH			<p>172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~176.73m 密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m 43° 割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。</p>
174	174.13			B			<p>174.13~175.55m: B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。</p>

## コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~176.73m 密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m 43° 割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。</p>
<p>174.13~175.55m: B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。</p>

## 申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
231	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化、挟在物の有無については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態、石英の晶出については、補足的なものであるため削除。</li> <li>・173.93mでカリ長石を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。</li> </ul>
232	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。</li> <li>・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。</li> <li>・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。</li> </ul>